

特別  
史跡 無量光院跡発掘調査報告書XVII

—— 第46次調査 ——

2021

令和3年3月

平泉町教育委員会

特別  
史跡 無量光院跡発掘調査報告書XVII

—— 第46次調査 ——

2021

令和3年3月

平泉町教育委員会





全景（東から）



調査区全景（西から）



調査区北側（北から）



調査区南側（西から）

## 序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶏山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧親自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』文治五年(1189)九月十七日条の「寺塔已下注文」に、無量光院跡は奥州藤原氏三代秀衡が宇治平等院を模して建立したことで併せ、藤原氏の政庁「平泉館」との位置関係が記されています。

無量光院跡は、大正11年に国の史跡に指定されました。昭和27年には、文化財保護委員会(現文化庁)が発掘調査を実施し、『吾妻鏡』の記載が裏付けられるとともに宇治平等院との類似性・相違点が明らかになりました。その調査成果から、昭和30年には特別史跡に指定されています。

当町では、遺跡の重要性に鑑み平成5年から地元の方々のご理解とご協力を得ながら公有化を進め、史跡の恒久的な保存措置を図っております。平成14年度からは史跡整備を視野に入れ、整備に資する資料収集を目的とした本格的な内容確認調査を継続的に実施しております。

本報告書は令和元年度に実施しました第46次調査成果を収録したものです。本次調査では、無量光院造営時の整地層下から、築地塀が確認されました。この築地塀は40次調査で確認されたものと一連のもので、無量光院跡以前にあった重要施設の区画施設と考えられます。施設の性格は今後の課題ではありますが、平泉の都市変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

特別史跡無量光院跡保存修理事業につきましては、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会・宗教法人毛越寺に対し深く感謝申し上げます。

令和3年3月

平泉町教育委員会

教育長 岩 淵 実

# 例 言

- 1 本書は令和元年度（平成31年度）に国庫補助事業より実施した特別史跡無量光院跡第46次調査の報告である。
- 2 野外調査期間は令和元年8月19日から令和元年11月1日までである。室内整理期間は令和2年3月31日までである。
- 3 調査地点は岩手県西磐井郡平泉町平泉字花立地内である。調査面積は約120㎡である。
- 4 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

## (1) 令和元(平成31)年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 渕 実

平泉文化遺産センター

所 長 千 葉 登 主 事 那 須 駿 也

所 長 補 佐 高 橋 国 博 主 任 菅 原 克 義

主任主査文化財調査員 菅 原 計 二 補助員（臨時） 二階堂 里 絵

主任主査文化財調査員 鈴 木 江 利 子 補助員（臨時） 佐 藤 昌 弘

主任主査文化財調査員 島 原 弘 征 補助員（臨時） 熊 谷 明 美

文化財調査員 鈴 木 博 之 補助員（臨時） 菊 地 道 子

## (2) 令和2年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 渕 実

平泉文化遺産センター

所 長 千 葉 登 主 事 鈴 木 理 世

所 長 補 佐 島 原 弘 征 補助員（臨時） 二階堂 里 絵

主任主査文化財調査員 菅 原 計 二 補助員（臨時） 佐 藤 昌 弘

主任主査文化財調査員 鈴 木 江 利 子 補助員（臨時） 熊 谷 明 美

文化財調査員 鈴 木 博 之 補助員（臨時） 菊 地 道 子

主 任 佐 々 木 成 淳 補助員（臨時） 菊 地 道 子

- 5 発掘調査・室内整理は鈴木江利子、島原が担当し、菊地の協力を得た。事務は菅原(令和元年度)・佐々木(令和2年度)が担当した。
- 6 本書の執筆は、鈴木江利子、島原が担当した。
- 7 遺構の名称については、本書内では次のように使用する。  
本堂跡のある島を「中島」、本堂跡の東にある中島を「東島」、本堂跡北側で検出した小島を「北小島」とする。
- 8 土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。
- 9 調査成果の一部については、現地説明会(令和元年10月19日開催)、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表している。上記と内容が異なる場合は本書を優先する。
- 10 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）  
宗教法法人毛越寺、文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 11 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。
- 12 発掘調査参加者（順不同・敬称略）  
阿部俊春、石川巖登、石川誠、小野寺啓悦、小岩佳奈、小松代方代、佐々木利雄、佐々木直久、佐藤彦悦、佐藤参、佐藤正志、菅原静香、菅原まつ子、菅原有利、田村功、千葉勝也、千葉セツ子、千葉哲夫、千葉晃久、千葉ナカ子、千葉政志、千葉正行、千葉光春、千葉みよ子、橋階義彦、丸山聡子、矢崎木綿子、吉田琴子

# 目 次

I 位置と環境	1	III 調査の成果	6
II 調査の概要	6	1 調査概要	6
1 調査目的	6	2 出土遺物	15
2 調査方法	6	IV まとめ	28

# 表 目 次

第1表 無量光院跡調査履歴	2	第6表 瓦観察表	26
第2表 柱穴観察表	15	第7表 羽口観察表	26
第3表 かわらけ観察表	25	第8表 土製品観察表	27
第4表 中国産陶磁器観察表	25	第9表 種子観察表	27
第5表 国産陶器観察表	25	第10表 鉄滓観察表	27

# 図 版

第1図 平泉町の位置	1	第8図 断面図(4)	19
第2図 位置図	1	第9図 断面図(5)	20
第3図 無量光院跡遺構配置図	7・8	第10図 出土遺物(1)	21
第4図 調査区全体図	9	第11図 出土遺物(2)	22
第5図 断面図(1)	16	第12図 出土遺物(3)	23
第6図 断面図(2)	17	第13図 出土遺物(4)	24
第7図 断面図(3)	18	第14図 遺構配置図	29

# 写 真 図 版

写真図版1 Dトレンチ	32	写真図版6 40次トレンチ・調査区南側	37
写真図版2 Aトレンチ	33	写真図版7 Cトレンチ・南トレンチ	38
写真図版3 A・Bトレンチ	34	写真図版8 出土遺物(1)	39
写真図版4 Eトレンチ	35	写真図版9 出土遺物(2)	40
写真図版5 Cトレンチ・調査区南側	36	写真図版10 出土遺物(3)	41

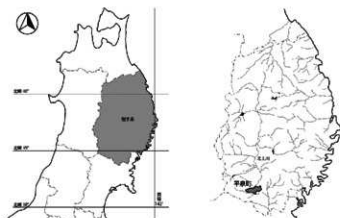




# I 位置と環境

## 1 無量光院跡の位置

平泉町は岩手県南部、北上川中流域に位置する人口約7,300人、面積約64平方kmの小さな町である。南は一関市、北は奥州市に接している。12世紀には奥州藤原氏の拠点として栄え、中尊寺や毛越寺庭園を始めとする数々の文化財が残り、往時をしのばせている。無量光院跡は北上川右岸の町の中心域に所在する。遺跡の中心は、JR東北本線平泉駅から北西約500m、周辺には水田や住宅があり、鉄道や県道が横断している。



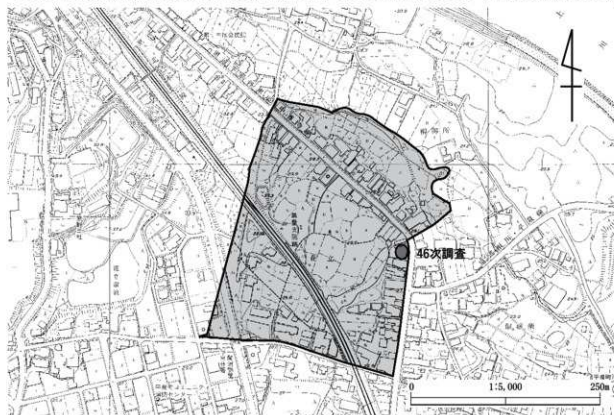
第1図 平泉町の位置

## 2 無量光院跡の現状

平泉は平安時代末の約100年間、東北地方を勢力下に置いた奥州藤原氏の拠点であり、当時の痕跡を多く残している。その一つである無量光院跡は、奥州藤原氏三代目の秀衡が建立した寺院跡である。

無量光院跡は、南側を除いた三方を土塁で囲まれ、その内側には梵字が池と呼ばれる池跡と、大小三つの島が（中島・東島・北小島）設けられている。また、西側は土塁の外側に沿って堀が設けられており、現在でもその痕跡を見ることができる。境内の規模は、鉄道と県道によって3分割されている関係で分かりにくいですが、南北約320m、東西約240mを測る。

昭和27年に文化財保護委員会（現在の文化庁）が行った発掘調査によって、中島には阿弥陀堂の跡



第2図 位置図

が、東島からは3棟の建物跡が確認された（1次調査）。建物は失われたものの、島の礎石は当時の建物の位置や規模を示し、周辺の休耕田部分は「梵字が池」と呼ばれる池の跡として平坦地を形成し、当時の面影を伝えていた。地形から推定される池の広さは東西約140mを測る。しかし、一見すると休耕田の中に島状の高まりが大小二つ、東西に並んだ状況でしかなく、説明がないと来訪者には分かりにくい状態であった。

無量光院の中心である中島と東島は、毛越寺の所有地である。池の跡や周辺は寺領ではなく、住宅や水田として使用されていたことから、管理団体である平泉町は鉄道と県道に挟まれた中央部分の住宅地や水田を公有化し、平成24年度からは池跡部分を中心に整備工事を開始した。平成26年度には東島及びその周辺、同27年度には中島、28年度には北小島の整備が行われ、以前に比べて東島・北小島が視認しやすくなってきており、様相は変化してきている。

第1表 無量光院跡調査履歴

回数	主体	原因	史跡指定地内	期	間	面積㎡	内 容
1	文化財保護委員会	内容確認	○	S270804 ～0903			・「音霊編」により、平治平等院を模し建立されたとの記述を裏付けた調査。 ・平等院との類似性、相違点が明確化。 ・本堂と翼廊の規模が明らかとなる。龍池式翼廊付阿彌陀堂。本堂の規模が平等院と類似。 ・本堂の東側の島（東島）で3棟の礎石建物を確認。
2	宮手照教育委員会	住宅増築	○	H040924 ～0930	6		・現状変更（建物建替）に伴うトレンチ調査。 ・東岸と地裏層を検出。
3	平泉町教育委員会	住宅増築	○	H040924 ～0930	6		・園池としての明確な遺構は検出されず。 ・地山傾斜面と灰色粘土質層は園池の可能性を残している。 ・西側土塁と北側土塁が繋がっていた可能性を指摘。 ・北側土塁の北斜面の平場から、波板状凸凹を伴う12世紀後半の道路跡を検出。
4	平泉町教育委員会	駐車場造成	○	H061205 ～1226	55		・井戸状遺構から多数のちゅう木が出土。 ・土版築層の構築年代を12世紀第3四半期後半から第4四半期前半と推定。
5	平泉町教育委員会	住宅改築		H100629 ～0729	190		・東側土版築層の基底部分と思われる整地地層層を確認。時期は12世紀第3四半期後半。 ・塙間が園跡の張り出し地形に向かう道路跡を確認。
6	平泉町教育委員会	車庫新築		H100817 ～0910	47		・塙跡1条、溝1条、土坑1基、柱穴58個を検出。
7	平泉町教育委員会	住宅改築		H101009 ～1125	300		・孤立柱建物1棟、柱穴列2条、特殊遺構2基、溝11条、土坑6基を検出。 ・特殊遺構とされた1基は、周溝状の溝で平円に区画された遺構。内部にこの遺構に付随すると思われる5個の柱穴が検出されており、宝樹に相当する遺構と考えられている。 ・もう1基の特殊遺構は、方形周溝に囲まれ、内部に壁柱穴を伴う方形の竪穴建物である。祭祀に関連した遺構と推定されている。
8	平泉町教育委員会	住宅新築	○	H110402 ～0707	610		・北側土塁に相当する部分で、傾斜面を平坦化する整地層を確認。地層は深いところ約3mに及ぶ。 ・北側土塁北の大走り状の部分から、幅約1.5mの石敷道路遺構を検出。礎石は頭大。内部は準大。その上部を細視で塞ぐ工法。
9	平泉町教育委員会	擁壁建設		H110715 ～0831	154		・7次調査の南側隣接地。同調査で検出された竪穴建物の南半を検出し、全容が明らかとなる。 ・他に孤立柱建物1棟、溝2条、土坑11基を検出。 ・竪穴建物は3.35×3.35mの略方形。深さ0.35mを測る。内部に2×3間の壁柱穴を確認。また、竪穴建物は6.3×7.0mの隅丸形状の周溝に囲まれている。周溝の規模は幅0.4m、深さ0.5mを測る。
10	平泉町教育委員会	物置新築		H110901 ～1018	220		・土塁より古い溝1条と土坑2基を検出。 ・土塁の断面観察の結果、坂築状に山粘土を積み上げた状況を確認。 ・土塁下の田表土層からコロコロかわらけの一括発見遺構を検出。
11	平泉町教育委員会	駐車場造成		H120605 ～0825	350		・西側土塁の基底部を確認。 ・柱穴を検出。
12	平泉町教育委員会	内容確認	○	H141102 ～150328	932		・池跡が非常に浅く、遺物包含層がないことを確認。 ・池底を平坦にするための整地層の一部確認。 ・池底から遺構は確認されない。 ・東島は地山を掘り残したものであること、景石は根石等が確認されていないことから、直に設置されていた州浜の礎石と思われることを確認。

次数	主 体	原因	史跡指定地内	期 間	面積㎡	内 容
13	平泉町教育委員会	内容確認	○	H150513 ~1219	2,900	・東島の東の調査。 ・表土から20cm下で地山(池底)を検出。遺物包含層は認められない。 ・ただし、北側に向かうにつれて若干深みを増す傾向が認められ、周辺に池灰の存在が予想されている。 ・中島(本堂跡)の東側(阿正面)に南北方向に並列する2列の柱列(4個×2列)を検出するも、横脚に関連するものではないと判断されている。 ・中島の北側から横脚の抜き取り痕と思われる柱穴を検出。 ・中島の北西側で汀線の追跡を行う。周辺では礎は検出されていない。 ・無量光院跡の南辺に位置する。南側土塁、堀跡の存在が予想される地域である。狭小な調査区であったが、土塁・堀跡は検出されず。
14	平泉町教育委員会	住宅増築		H150723 ~0731	32	・13次に続き池灰の追跡調査を行うも、池灰は確認されず。 ・園池北西地域から、竪穴建物、溝、土坑、柱穴を検出。柱穴は建物を構成する柱穴の一部と推定される。柱穴どうしの重複はない。 ・周辺に整地層を確認。西側土塁の基底部と推定される。 ・中島(本堂)を中心に南北対称の位置から、第7次で確認された竪穴建物と類似する遺構を確認。ただし、周溝は検出されていない。 ・中島の北側、北翼廊西側礎石列の延長部で北側に延びる横脚の柱穴を検出(南北柱間2.4m、東西柱間3.0m)。
15	平泉町教育委員会	内容確認	○	H160910 ~1203	549	・12世紀後半と推定される地層群を確認。 ・12世紀後半期以降と推定される建物を構成する柱穴の一部、溝、土坑を検出。 ・12世紀後半の瓦、かわかけ、陶器片、羽口が出土。 ・17世紀以降の溝2条、肥前産磁器が出土。 ・本堂北側翼廊の延長線上に横脚跡を検出(1×4間)。 ・横脚跡の北側に小島(仮称:北小島)を検出。平等院との類似性がさらに補足される。
16	平泉町教育委員会	物置建築		H161025 ~1124	36	・参道の円礎が池底付近の埋土から多数出土。 ・本堂西側から北側にかけての池の範囲が明らかになった。 ・池北岸と北小島とをつなぐように、土手状の高まりが設けられていることを確認。平等院との類似性がさらに補足された。 ・専水の濾過装置と推定される落ち込み遺構を検出した。 ・土原状の高まりの下に板が埋設されていることを確認した。専水に関係する木樋の可能性も想定される。 ・池底、池岸に石は認められない。
17	平泉町教育委員会	内容確認	○	H170613 ~1102	270	・本堂北側の池の範囲が明らかになり、池の範囲が一部県道北側まで及ぶ可能性が出た。 ・専水の可能性の高い溝跡を確認。 ・18次調査で確認した、板の遺跡を行ったが、板の下部に掘り込み等の痕跡は認められなかった。 ・県道際で道路側溝と思われる近世の溝跡1条を確認。奥州道中に関連する溝と思われる。
18	平泉町教育委員会	内容確認	○	H180605 ~1204	800	・池跡の北東から東の汀線を検出し、池跡は現地形と異なり北に張り出して県道北側まで広がることが確認された。 ・県道より北側では溝や柱穴などの遺構を検出した。柱穴の中には整地以前のものもあり、無量光院以前から、何らかの土地利用されていたことが確認された。
19	平泉町教育委員会	内容確認	○	H190615 ~1110	700	・周溝を伴う竪穴建物1棟、溝3条、柱穴30個を検出。 ・竪穴建物は、西側が調査区外のため全容は不明だが、南北3.35m、東西1.42mを測り、壁柱穴を伴っている。この竪穴建物の外側を幅31~86cm、深さ6~12cmを測る溝が円形状に通っている。この竪穴建物は7次調査のものに類似しているが、周溝が円形状を呈している点が若干異なる。 ・周溝に区画された範囲は南北で約8.14mを測る。なお、東西方向は調査区外を含むため不明だが、確認した範囲で約4mを測る。
20	平泉町教育委員会	内容確認	○	H200602 ~1031	700	・池東側と南側の岸を確認した。 ・今年度までの調査で東西の岸を確認できたことから、無量光院跡の池の大きさは、東西約140mあることが確認された。また、池岸には石が敷かれていた様子はなく、池は浅いと思われる。 ・橋の痕跡は検出できなかったが、池底から用途・性格不明の掘り込みを検出した。 ・この掘り込みは幅2.8~3.5m、深さ20~30cmあり、池底を整える際に埋め戻されたものと考えられるが、性格は不明である。
21	平泉町教育委員会	住宅新築		H210512 ~0601	150	・本堂基礎周辺を巡る板石及び正面に敷かれた坪の広がりを確認し、再測量を行った。 ・ただし、北翼廊の一部で検出された板石を覆う基礎造成土の検証や坪の広がり範囲確認及び東端の石列との関係の確認などが課題として残されている。 ・中島東端から舞台と考えられる柱跡が検出された。
22	平泉町教育委員会	内容確認	○	H210615 ~1221	700	
23	平泉町教育委員会	内容確認	○	H220621 ~1221	500	

回数	主体	原因	史跡指定地内	期間	面積㎡	内容
24	平泉町教育委員会	内容確認	○	H230704 ～1228	235	・本堂基礎構造をおおよそ確認することができた。また、基壇表面には川原石を湖浜状に葺いていた。 ・「塙」の広がりはおおよそ東方向2.7m、南北方向24mであることを確認した。
25	平泉町教育委員会	内容確認	○	H240720 ～1228	290	・昭和27年の一次調査で確認された東島に所在する礎石建物3棟の北半部を中心に再調査を行った。特に東方建物は、複数の建物に分かれる可能性がある。また、礎石建物より古い風立柱建物を検出したが、礎石及び基石の下に広がること及び南側調査区外に広がっていることから規模は不明である。 ・中島北側の池岸から、柳及び入江を確認した。 ・東島の岸は後世の削平を受けており、残存状況が不良であること、大型の基石の一部は現位置を覆っていないことが確認された。
26	(公財)岩手県文化振興事業団理蔵文化センター	内容確認	○	H240601 ～1205	1,390	・電線共同溝本線部分の内容確認調査。無量光院跡の北西端から東端にかけて細長く調査を行い、池跡とその排水路を検出し、西側土塁下に整地層が広がっていることを確認した。 ・池跡北西側の護岸及び堆積土の残存状況は良好で、池北西側の様相を把握することができた。
27	平泉町教育委員会	物産建替	○	H250520 ～0605	41	・無量光院跡南側の史跡外の調査。12世紀の溝跡2条と堀跡1列を検出したが、無量光院本体の軸線とは異なり、無量光院跡に関連した遺構かは不明 ・昭和27年の一次調査で確認された東島に所在する礎石建物4棟の南半部を中心に再調査を行った。特に東方建物は、複数の建物に分かれる可能性がある。 ・中島北側の池岸から、柳及び入江を検出し、規模・形状を確認した。
28	平泉町教育委員会	内容確認	○	H250617 ～H260314	300	・西側土塁南側の史跡外の調査。同土塁の斜面部分を検出。
29	平泉町教育委員会	内容確認	○	H260317 ～0331	54	・東門調査区では、東門は検出されなかったが、表土下5cmで12世紀の整地層を検出し、無量光院造営時に大規模に造営されていたことが確認された整地層の下から無量光院跡造営以前と考えられる幅7m、深さ1mの溝を検出した。
30	平泉町教育委員会	内容確認	○	H260623 ～1226	500	・北小島の大きさは東西15m、南北10.5m程度あること、高さが少なくとも30cmあることが確認された。
31	平泉町教育委員会	物産建替	○	H260623 ～0718	51	・無量光院跡の池(梵字が池)の北端部分の調査。 ・池底及び護岸の一部が検出された。護岸のラインは調査区北側に隣接する用水路(青線)と並行関係があり、当時の地形が現在の境界に影響を与えている可能性を指摘。
32	平泉町教育委員会	内容確認	○	H261109 ～1212	27	・電線共同溝本線から延びる引き込み線部分の内容確認調査。 ・大平が近代以降の道路削平によって12世紀の遺構相が失われていたことが確認された。
33	平泉町教育委員会	内容確認	○	H270611 ～1116	500	・中島の補足調査と東側土塁及びその東部の調査 ・中島の調査では本堂基壇が川原石に覆覆されている独特の基礎面であることを確認した。 ・東側土塁は、無量光院造営時に盛られていることを確認した。 ・東側土塁の東部では、無量光院跡段階の柱穴と汚物廃棄穴を確認した。また、その下層から無量光院以前の築地層を検出した。
34	平泉町教育委員会	内容確認	○	H280811 ～1130	200	・無量光院跡北東端の調査 ・北東側を区画する堀跡2条を確認。堀跡は12世紀後半以降に同一箇所で開催間作り替えが行われていたことを確認。無量光院跡北端に位置する柳之御所遺跡の堀跡も外側から内側への移行及び複数回の設置が認められ、同遺跡間との関連性が伺える。
35	平泉町教育委員会	住宅新築	○	H280523 ～0729	147	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。12世紀の東西軸の大溝跡を検出したが無量光院跡に伴うものかは不明。
36	平泉町教育委員会	内容確認	○	H290801 ～1117	160	・無量光院跡北東端の調査 ・北東側を区画する堀跡2条を確認。堀跡は12世紀後半以降に同一箇所で開催間作り替えが行われていたことを確認。無量光院跡北端に位置する柳之御所遺跡の堀跡も外側から内側への移行及び複数回の設置が認められ、同遺跡間との関連性が伺える。
37	平泉町教育委員会	住宅新築	○	H290531 ～0801	110	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑、溝、溝、柱穴を検出。無量光院跡造営時の整地層下から12世紀前半のかわらけとともに陶土器が出土。
38	平泉町教育委員会	住宅新築	○	H290802 ～0824	75	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑、溝、柱穴を検出。
39	平泉町教育委員会	住宅新築	○	H300405 ～0507	53	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。木枠を持つ井戸状遺構1基を検出。
40	平泉町教育委員会	内容確認	○	H300709 ～1026	200	・無量光院跡東側の調査。無量光院跡以前の石敷と築地層を検出。
41	平泉町教育委員会	盛土	○	H301026 ～1129	58	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。溝跡3条を検出。うち2条の所属時期は12世紀。
42	平泉町教育委員会	電線共同溝	○	H310306 ～0326	20	・無量光院跡を北西～南東方向に縦断する掘道跡の調査。溝1条、整地層、柱穴1個を検出。
43	平泉町教育委員会	造成	○	H310415 ～0423	85	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑1基、柱穴を検出。

次数	主 体	原因	史跡指定地内	期 間	面積㎡	内 容
44	平泉町教育委員会	住宅新築		H310409 ～R010523	90	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。12世紀の竪穴層とその上面から土坑、柱穴を検出。
45	平泉町教育委員会	住宅新築		R010702 ～0807	150	・無量光院跡南東側の史跡外の調査。竪立柱建物跡、土坑、溝、柱穴を検出。
46	平泉町教育委員会	内容確認	○	R010819 ～1101	120	・無量光院跡東側の調査。40次調査の続きとなる無量光院跡以前の築地層を検出。

## 参考文献

- 文化財保護委員会1954 無量光院跡 埋蔵文化財発掘調査報告第三
- 平泉町教育委員会1993 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第34集 (3次)
- 平泉町教育委員会1995 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第47集 (4次)
- 平泉町教育委員会1999 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第73集 (5～7次)
- 平泉町教育委員会2000 平泉遺跡群発掘調査略報 岩手県平泉町文化財調査報告書第73集 (8～10次)
- 平泉町教育委員会2003 特別史跡無量光院跡内容確認調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第83集(12次)
- 平泉町教育委員会2004 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅰ 岩手県平泉町文化財調査報告書第87集(13次)
- 平泉町教育委員会2004 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第85集 (14次)
- 平泉町教育委員会2005 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅱ 岩手県平泉町文化財調査報告書第91集(15次)
- 平泉町教育委員会2005 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第92集 (16次)
- 平泉町教育委員会2006 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅲ 岩手県平泉町文化財調査報告書第99集(17次)
- 平泉町教育委員会2008 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅳ 岩手県平泉町文化財調査報告書第107集(18次)
- 平泉町教育委員会2009 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅴ 岩手県平泉町文化財調査報告書第109集(19次)
- 平泉町教育委員会2010 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅵ 岩手県平泉町文化財調査報告書第113集(20次)
- 平泉町教育委員会2011 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第116集 (21次)
- 平泉町教育委員会2011 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅶ 岩手県平泉町文化財調査報告書第115集(22次)
- 平泉町教育委員会2012 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅷ 岩手県平泉町文化財調査報告書第117集(23次)
- 平泉町教育委員会2013 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅸ 岩手県平泉町文化財調査報告書第119集(24次)
- 平泉町教育委員会2014 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅹ 岩手県平泉町文化財調査報告書第121集(25次)
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2015 無量光院跡第26次・花立Ⅰ遺跡第30次・花立Ⅱ遺跡第24次発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第631集
- 平泉町教育委員会2015 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第124集 (27・29次)
- 平泉町教育委員会2015 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅺ 岩手県平泉町文化財調査報告書第123集(28次)
- 平泉町教育委員会2016 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅻ 岩手県平泉町文化財調査報告書第125集(30次)
- 平泉町教育委員会2017 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅼ 岩手県平泉町文化財調査報告書第127集(33次)
- 平泉町教育委員会2018 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅽ 岩手県平泉町文化財調査報告書第129集(34次)
- 平泉町教育委員会2018 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第130集 (35次)
- 平泉町教育委員会2019 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅾ 岩手県平泉町文化財調査報告書第131集(36次)
- 平泉町教育委員会2019 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第132集 (37・38次)
- 平泉町教育委員会2020 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅿ 岩手県平泉町文化財調査報告書第133集(40次)
- 平泉町教育委員会2020 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第134集 (39・41次)
- 平泉町教育委員会2021 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第138集 (42・43・45次)

## Ⅱ 調査の概要

### 1 調査目的

平成14年から開始した復元整備に伴う内容確認調査で、今年度は18年目にあたる。無量光院跡はこれまで、文化財保護委員会・岩手県教育委員会・平泉町教育委員会によって今回の調査を含め46回の調査が行われてきている。調査履歴は第1表に記したので参照願いたい。46次調査は、無量光院跡東側土塁東側の平坦面を対象に調査を行った。

### 2 調査方法

**グリッド** 遺構実測や遺物出土地点の記録等の実測作業の基準として、無量光院跡全域に平面直角座標X系（測地2000）を元に20m四方のグリッドを設定し、それに基づき基準点を打設した。

なお、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震において、調査区周辺では西北西方向に約20cm、平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖地震によって、南南東へ約2.7mずれていることが確認された。よって、同地震以降に新規設置した基準点に関しては、変動前の数値（測地成果2000）に変換した測量成果を使用し、既存の測量成果との整合性をつけた。

**掘掘・検出** 遺構検出面まではスコップもしくは移植ベラで表土層を剥ぎ、遺構や層位の確認を進め、鋤簾等で遺構検出作業を行った。

**精査** 基本的には検出に留めた。ただし、遺構の年代・層序等を確認するため整地層・溝は部分的にサブトレンチを入れ、土坑・柱穴は半裁までに留め調査を行った。なお、今回の調査区は近現代の掘乱が著しかったことから、整地層及び築地塼の調査においては、可能な限り掘乱を利用した断面観察を行うよう心掛けた。

**記録** 遺構の実測は、平板測量もしくはグリッドを1×1mに分割したメッシュを用いて測量した。遺構写真は35mm版カメラとデジタルカメラ（ニコンD90）をメインカメラとし、遺構及び調査全景写真時には、メインカメラに加えて6×7版カメラ（リバーサル）で撮影を行った。

**埋め戻し** 山砂で遺構面を覆い、その上に調査で掘削した土を埋めた。

**普及活動** 調査地点は無量光院跡を北西-南東方向に縦断する県道沿いにあったことから、現場は随時公開し調査に支障がない範囲で説明等を行った。調査終盤の令和元年10月19日に現地説明会を開催した。調査成果は、「広報ひらいずみ」等で公表している。

## Ⅲ 調査の成果

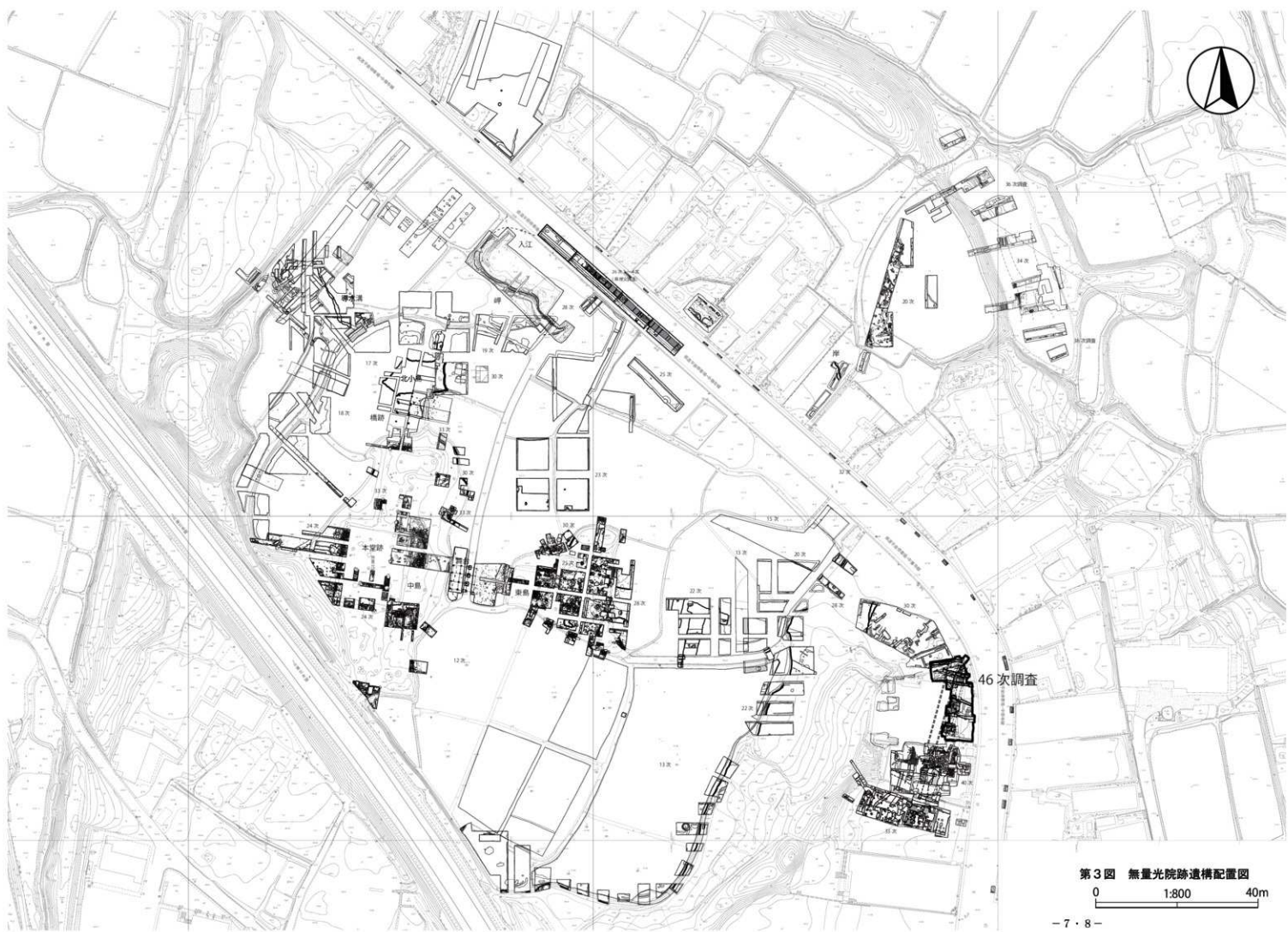
検出遺構は、土塁構築層、整地層、築地塼、溝跡4条、土坑1基、柱穴30個である。

### 1 調査概要

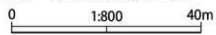
無量光院跡東側土塁が途切れ無量光院跡の正面にあたる部分では、池北側を通る県道が南北方向から北西-南東方向に向きを変える地点でもある。県道の向きが変わった理由として、かつてこの付近には東門があり、土塁が途切れていた部分に道路を通したため方向が変わったと言われている。実際この近くには「角」という屋号をもつお宅があり、土塁が途切れていたため東門があったと推定されている地区であった。

東門の有無を確認するため、30次調査においてこの一角を調査している。この調査では12世紀の大

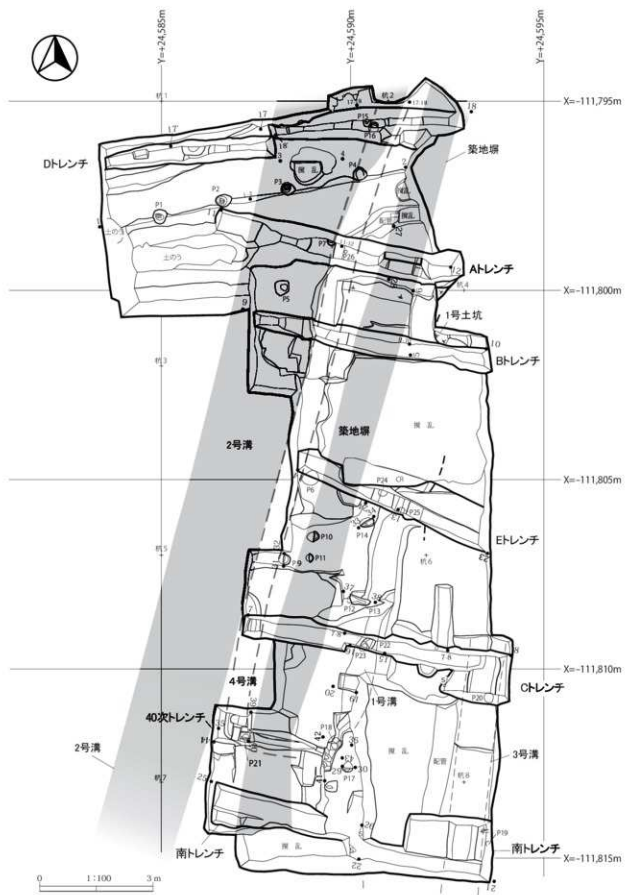




第3図 無量光院跡遺構配置図







第4図 調査区全体図

規模な整地層とその直下に幅7m、深さ1mの大溝を確認しており、無量光院造営段階において、造成が施されていること、整地層下にそれ以前の遺構が内包されていることが確認できた。ただし、現代の攪乱が著しく東門の有無を確認することができなかった。

今回の調査では、30次調査段階で調査できなかった東土塁先端部東側を平成30年度からの二ヶ年で調査し、東門の有無とその周辺の遺構分布調査を目的としている。

平成30年度の40次調査では無量光院造営時の整地層下から、12世紀の石敷と築地塀が確認された。築地塀は南北方向に延びており、検出長は8.8mを測る。北側に隣接する石敷の範囲内では築地は未確認であるが、石敷の北側にも築地塀の続きがあることを確認した。基底部の幅は1.58m、高さは65cmを測り、明黄褐色粘土と褐色土が版築状に積まれ、下層30cmは灰白の粘土ブロックとにぶい黄褐色が混入していた。石敷の範囲は、東西方向12.4m、南北方向6.07mを測る。2条の溝で3つに区画され、一番東側では径12～20cm、中央では30～60cm、西側では15～35cmの石が敷かれていた。石敷は平坦ではなく西から東に向かうにつれて低くなり、高低差は40cm程を測る。石の配列は端の見切り石の縁はそろえる様にはしているものの、内部は規則的に配置している様子は無い。ただし、2号溝に接するところは縁を揃えており、同様に東側の溝も両側の縁を揃えていた。石敷の方向は北から東へ13～15度振れており、無量光院跡の軸線(東へ8度)とは異なっている。

今回は当該予定地の北半部、30・40次調査の間を対象に東西方向11m、南北方向20mの調査区を設定した。北側は12世紀の整地が表土直下から検出しているが、中央から南側では昭和40年代に建設された店舗建設時の基礎が深く入り、島状に遺構が残る状態であった。よって、調査では、攪乱を利用したサブトレンチを東西方向に設定し、断面観察を主体とした調査に切り替えた。トレンチの幅は0.5mから1m強で、長さは5～9m程度であるが、遺構観察に必要と判断した際には当該部分を拡張している。トレンチの名称は北からDトレンチ、Aトレンチ、Bトレンチ、Eトレンチ、Cトレンチ、40次トレンチ、南トレンチとしている。

今回の報告ではトレンチごとに概要を述べ、その後個別遺構のまとめを行う。

## (1) トレンチの概要

**Dトレンチ** 北端部が30次調査区と重なっており、西半部で無量光院東側土塁の一部(断面17' - 18'の1、2層)を確認した。恐らく土塁の裾はこの付近まで広がっていたと考えられる。その下には整地層(断面6層)や、溝状の窪みが認められる(同断面8層)。6層はトレンチ中央で確認した2号溝に切られている。東側では築地塀西半部(断面17-18の2、3層)と、その崩壊土と考えられる明黄褐色ブロックが混入した褐色土(同断面の1層)を検出した。築地塀と2号溝の間には柱穴2個と4号溝(同断面の5層)と考えられる層を検出した。

**Aトレンチ** Dトレンチから2～3m南に排水管の掘り方があり、その跡を利用してトレンチを設定した。2号溝は遺構全体が確認でき、東側で築地塀の基底部を検出している。築地塀の両側には柱穴の痕跡があり、2号溝との間には南北方向の溝1条(4号溝)と柱穴2個を検出した。

**Bトレンチ** 2号溝の東側と、築地塀、東端には1号土坑が検出した。また、トレンチ断面では築地塀を挟むように柱穴の痕跡があり、2号溝との間には4号溝跡を確認した。

**Eトレンチ** 西側で築地塀跡を、中央で柱穴2個と1号溝を検出している。東側ではBトレンチで確認した1号土坑と似た堆積土が広がり、鉄滓や羽口などの出土が多い。1号土坑とは距離が4～5m離れているが、一連の遺構と考え、東に落ち込む広い範囲が想定できる。

**Cトレンチ** 西側で築地塀、中央で1号溝と柱穴2個、東側で3号溝を検出している。築地塀の西側には築地以前と思われる溝(4号溝)が通っている。3号溝の上には近世と考えられる盛土があり、

南側の断面では、この上面から柱穴が掘られている。3号溝が造られる前の自然堆積層から鉄滓が多く出土している。1号溝は直上まで攪乱が及んでいるため、全体は分からず、周辺も同様の状態である。**40次調査トレンチ** 令和元年に行った無量光院跡40次調査で掘削した箇所を拡張している。築地塼とその下に1条の溝（4号溝）を検出した。4号溝の上から小規模な柱穴が1個掘削されている。溝は築地塼西端では南北方向で、築地下では東西に方向を変えている。その延長線上では攪乱を受けていたため、溝の続きは消失している。東側では攪乱が深く入っていたため、他の遺構があったのか確認することはできなかった。

**南トレンチ** 西側で築地塼跡、東側で3号溝を検出している。Cトレンチと同じ様に3号溝上には近世と考えられる盛土がある。またトレンチ東壁には重複関係が一番新しい柱穴跡を確認できる。3号溝以前の自然堆積層からは、鉄滓や瓦などが出土した。

## (2) 築地塼跡

築地塼跡は調査区北のDトレンチから、南にかけて全長19.2m検出している。断面形は基底部が台形状に残り、上部の崩壊した部分は両側に流れ堆積している状況である。以下の表には築地塼を確認した範囲を記載した。検出幅は台形状に残った上端が、0.9m～1.36m、基底部は、攪乱や調査区外に広がるDトレンチを除くと1.2～1.73mを測る。軸方向は攪乱の影響で断続的に確認したため定かではないがN13°～16°Eと思われる。2号溝の東側に並行している各トレンチ毎の詳細は以下のとおりである。

**Dトレンチ**(断面17-18) 東端で幅0.9m検出しているが、築地塼の東半分は調査区外にあり全体は確認できていない。版築の厚さは0.3m程度で、地山の上は灰色のしまりある土で、上に黄褐ブロック主体の層が残存している。築地塼の上部には褐色層で均一な色合いから築地塼の崩壊土と考えられる層が広がっている。厚さは60cmを測り、北側の26次調査でも確認できた層である。2号溝はこの褐色層の上から掘り込んでおり、築地塼より新しい遺構であることが確認できた。築地塼の西1mの箇所に小さい柱穴が2個配置されていた。この柱穴と築地塼裾との間はややくぼんでいる状態で、築地塼の溝（4号溝延長部）の可能性もある。築地塼裾から溝の中心までは0.85m離れていた。

**Aトレンチ**(断面11-12) 東寄りで築地塼を検出した。箱型に地山を削り出してその上に版築土が10cm程度残存していた。地山の削り出し部分は東西幅1.05m、高さ33～38cmで、平面では南側に15cm程度確認しているが、区画を分けているのか、南に傾斜している(断面27-28)。地山の削り出し部分の高さは周辺40～50cm程を測り、断面11-12には築地の両側に柱穴状の痕跡がある(35、36層・46、47層)。両柱穴の間隔は1.46mを測る。2号溝との間には、築地の崩壊土と、4号溝を確認できる。4号溝中心と築地塼中心の距離は1.55mを測る。

**Bトレンチ**(断面9-10) トレンチ中央に位置している。基底部は周辺から地山が20cm程度高い状態で、その上に構築している。地山上は灰黄色と鈍い黄褐色のブロック層が互層に重なっており、版築の厚さは46cmを測る。砂を多く含んだ版築土で、他のトレンチで確認した版築と異なる傾向がある。周辺の地山も砂質であるため、近くの土を積み重ねた可能性もある。上部17層は現代埋土と思われる。両脇には柱穴か板の痕跡(24層)があり、両者の間隔は1.2m程ある。Aトレンチと同様に築地塼の施設と考えられる。断面では14・23層が掘方となる可能性があり、その間隔は1.5m程ある。

築地塼の西では4号溝を確認している。上部に、築地塼の崩壊土層が乗っており、Aトレンチと同じ様相を呈する。築地塼中心から溝中心まで1.3m、築地塼からは60cmの距離である。

**Eトレンチ**(断面23-24・13-14) 西に寄った箇所で見出している。Bトレンチとの間は大きく攪乱されており、2間四方ほどのコンクリートの基礎が広がっている。そのため、攪乱を活用した断面で

遺構を確認している。築地塼は、異なる色調の土を重ねて版築している様子が観察できる。浅黄色を主体とする10cm前後の厚さで、間に2cm前後の褐色土が入るように積み重ねられていた。断面形は台形状であるが、両側に崩壊土が堆積している。東側には築地塼以前の溝跡があり、その中心には柱穴が2個掘られている。溝の幅は1.66mで、深さは30cmである。西側は調査区外になり、溝の確認はできない。東側では東に落ち込む堆積層が広がり、鉄滓や羽口などの遺物を含んでいる。

**Cトレンチ (断面7-8)** 西側で検出した。築地塼は粘土ブロックが含まれた明るい土と暗い土の層が折り重なっている。上部の5層や6層は攪乱された埋土である。西端では築地以前の4号溝が南北方向に通っている。基底部はこの溝に僅かにかかり、山状の地山の削り出しを挟んで、版築の下には厚さ4~16cmの黄褐色や褐灰の混じる層が広がっている。この堆積層は、基底部だけではなく、東や南にも広がっていることから、築地塼には直接関連しないものと思われる。なお、1号溝や柱穴には切られている。

**40次トレンチ (断面35-36・43-44・39-40)** 40次調査で一度調査しているが、このトレンチをやや拡張した形で今回調査を行っている。トレンチ幅は30~45cm程で、両壁の断面は攪乱や築地地下の状態が北壁と南壁で異なっている。

築地塼の状態は東側が攪乱で失われ、西側は崩壊土が堆積していた。断面43-44では、明黄褐色粘土や褐色粘土が版築状に重ねられ、しまった様子を示すが、下層は灰白色ブロックが砂と混じりやや雑に重ねられた印象を持つ。北壁の35-36では灰白色ブロックと砂の堆積はみられない。築地塼の下には、それ以前の溝があり、当トレンチ付近で南北方向から東西方向に屈曲している。南北方向は北のCトレンチ西の4号溝であり、層位も似ていることから一連の溝と考えられる。なお、溝は東側で攪乱を受けており、その先が不明である。

**南トレンチ (断面25-26)** トレンチ西側で検出した。築地の基盤が調査区で一番高い位置で、築地の残りもやや高い方である。黄色系や褐色系粘土の積み重ねが、厚さ5~10cmで交互に折り重なっている。築地塼の西側は崩壊土が流れ、東は板垣や柱穴の痕跡は確認できないものの基底部の立ち上がり認められる。

位置	断面	検出標高 (m)	上部幅 (m)	基底部標高 (m)	基底部幅 (m)	築地厚 (cm)	備考
Dトレンチ	17-18	26.95	0.90	26.70	1.10	30	・東は調査区外
Aトレンチ	11-12	26.90~27.02	0.95	26.51~26.90	1.20	40~50	・築地両脇に柱穴 ・築地下部地山崩壊し
Bトレンチ	9-10	27.18~27.32	1.22	26.60~26.78	2.08	40~47	・築地砂多く含み崩れている ・両脇に柱穴状痕
Eトレンチ	13-14	27.05~27.08	0.95	26.68~26.70	1.76	40	
Cトレンチ	7-8	26.84~26.90	1.36	26.63~26.75	2.28	20~25	・下部遺構の上に構築
40次トレンチ	35-36 43-44	27.00 27.10~27.22	1.05 1.20	26.70 26.60~26.70	0.96 1.35	30 50~56	・下部掘り込み上に構築 ・東側は攪乱
南トレンチ	25-26	27.06~27.24	1.36	26.78	2.05	46	

### (3) 溝

#### 1号溝

Cトレンチ中央北から40次トレンチ東までの範囲で検出した。延長は3.4mで、北側は攪乱に切られているため、その先は確認できていない。ただし、北側に位置するEトレンチ中央では規模は異なるものの溝状の窪みがあり、関連している可能性がある。また、南側はP18に切られた先が攪乱によって失われ、南トレンチでは確認できていない。断面は浅い皿状を呈し周辺の堆積層を切っており、柱

穴3個(P17・18・23)には切られている。軸方向は、浅くはっきりしないところもあるが概ねN18°Eを示す。

Cトレンチでは断面7-8にあるように小規模な状態で検出し、柱穴に掘削されている。築地塀東に50cm離れた箇所南北に走っている。築地塀中心から1号溝中心までは1.8mの距離である。このすぐ南の19-20でも同様に、築地塀下から広がっている層を切っており、柱穴には切られて南に進んでいる。北側より溝幅が広く、東の攪乱部分にかけても広がっている。南は攪乱に削平されたためか検出してない。調査を進めた段階で東の攪乱下に向かう様な掘り込みが現れて、同一の遺構か不明ではあるが、方向を変えて東の未調査区に向かっている可能性もある。

位置	検出標高 (m)	上部幅 (cm)	底面標高 (m)	深さ (cm)	備考
断面 7-8	26.59	38	26.40	19	柱穴に切られる
断面15-16	26.93	58	26.68	25	柱穴に切られる
断面19-20	26.65	(35)	26.48	17	東肩は調査区外

## 2号溝 (SD2)

調査区北側のDトレンチからEトレンチにかけて南北方向で確認した。南北いずれも、調査区外に延びている。検出距離は7.4mで、軸方向はN14°Eを示す。幅は2.2~2.5mで、深さはAトレンチで1.2mである。

Dトレンチでは検出面が高く残っていたため、良好に残存していた。断面17-18では遺構に対して斜めであるため幅は大きくなっている。黒褐色の層が溝壁を覆った地点まで調査したが、この層はAトレンチ(断面11-12)の7層に相当すると思われる。溝上層では9層(断面17-18)が一気に埋められており、その上には4・8層が西から覆い被さるように埋められている。西に位置する土塁の構築層と考えられ、厚さは50cm程度である。

Aトレンチでは2号溝の底を検出した。断面形は逆台形状、上端幅は2.2mで、下端幅は50cm、深さは1.2mを測る。下層は、粘土や砂が混じる壁崩壊層と思われ、水分を含み柔らかい土である。中央下位には黒色の植物腐植で占める6層が堆積し、桃類の種などが出土した。この層で一定期間溝は開口し、上部平坦面から灰黄色の砂などが流れ込んだ跡が残されている。上層は明黄褐色や灰黄色粘土ブロックで一気に埋め戻され、さらに土塁の構築層と推定される層がその上に乗ってきている。

Bトレンチでは西側は調査区外にあり、上層の調査を行っている。断面9-10の堆積層の状態から1層は東側土塁もしくは整地に伴う層で、2層はD・Aトレンチと同様に黄色粘土ブロックなどで一気に埋め戻している。東側上部から壁面伝いに小石が散らばって出土している。深さ70cmで腐植土(Aトレンチ6層対応)の層に到達し、東に低くなって行くことから、溝の中心は調査区にあると思われる。

3か所のトレンチで2号溝が検出し、共通して東肩側から小石が落ちてきている、上層は一気に埋め戻し、その上に東側土塁に伴う構築層がある。築地塀との関係では築地塀が崩れた状態で、本遺構が造られていた。あるいは、同時存在の時期があり、溝は上層を掘り直した後埋め戻しをしている。土塁構築層より下の堆積層(整地層)を切っているため、これよりよりも新しい。

位置	断面	西肩標高 (m)	東肩標高 (m)	上部幅 (m)	底面標高 (m)	深さ (m)	備考
Dトレンチ	7-8	27.22	27.62	3.50	26.37まで調査	(1.25)	
Aトレンチ	11-12	27.22	27.18	2.20	26.06	1.20	
Bトレンチ	9-10	調査区外	27.10	(1.50)	26.68まで調査	(0.90)	腐植土層まで調査

### 3号溝 (断面21-22・7-8東側)

調査区南東側に南北方向に検出している。Cトレンチと南トレンチ東側にあり、北と南は調査区外にある。検出距離は6m、幅は0.9mで深さは0.3~0.4m程度である。断面形は逆台形状から椀型で、東側の肩は西に比べて下がっている。軸方向はN6°Eであり、南の40次調査の6号溝方向に向かう。形状や埋土の状況からみて一連の遺構と思われる。

3号溝を検出した東側周辺は、近世磁器を含む40~60cmの埋土で覆われている。この下に自然堆積と考えられる黒褐色(南トレンチでは8層)から灰色系粘土層の堆積がみられ、これらに覆われて3号溝を検出している。出土遺物はかわらけや鉄滓など少量で、遺構年代には直接関係しない。溝の周辺には厚さ10~45cmの灰色系の堆積があり、南トレンチの13層や15層に多くの鉄滓や羽口などが出土している。3号溝はこの層を切っており、周辺の堆積状態からみて近世の溝と思われる。

位置	断面	検出標高 (m)	上部幅 (cm)	底面標高 (m)	深さ (cm)	備考
Cトレンチ	7-8	26.75	89	26.38	37	
南トレンチ	21-22	26.70	92	26.38	32	

### 4号溝

Dトレンチから40次トレンチの間に検出した南北方向の溝である。それぞれのトレンチで築地塼の脇で並行していることが共通するが、埋土は場所により様相が異なる。築地塼以前もしくは同時期に造られており、築地塼の崩壊土の下に位置している。検出標高は26.7~26.76mで、底面標高は26.33~26.48mを測る。40次トレンチの箇所では、南北~東西方向に方向が変わる箇所、東に屈曲している。東西方向に向いた箇所はトレンチ北側壁(断面35-36)に溝の側面を確認している。南側の溝側面や肩の部分は築地塼の下になるため、今回は調査していない。ただし、東側の先は掘乱箇所があり途切れているため、この付近で終了しているのか不明である。検出距離は、南北方向で17m、東西方向は1.5m程度である。南北方向の軸方向はN16°Eを測る。

位置	断面	検出標高 (m)	上部幅 (cm)	底面標高 (m)	深さ (cm)	備考
Dトレンチ	17-18	26.72	80	26.46	26	
Aトレンチ	11-12	26.72	64	26.48	24	
Bトレンチ	9-10	26.70	60	26.48	22	
Cトレンチ	7-8	26.76	(60程度)	26.45	31	
40次トレンチ	39-40	26.73	(50)	26.45	28	・柱穴に切られている ・溝の北側面検出
40次トレンチ	43-44	26.70	—	26.33	37	東西方向に変わる

## (4) 土坑

Bトレンチ東端で、東西方向1.5m、南北方向0.9mの範囲で確認した。西から東に落ち込み、大半が調査区東側に広がると思われる。築地塼の崩壊土の上面に位置し、下面に明黄褐色粘土を敷いて、この上に炭主体の層に乗っている。炭と共に鉄滓や羽口を多く出土しているため、鉄製品を作っていた工房跡等が近くにあった可能性がある。今回の調査ではこの範囲が土坑状に円を描く様子で確認されたため土坑としているが、同じような状態が南のEトレンチでも確認できた。BトレンチとEトレンチは4m程離れており、一連の土坑であれば、南北方向は6m程に広がる可能性がある。

Eトレンチ東側では東西方向1.5mの範囲に炭や鉄滓・羽口などの集中する箇所がある。下層には粘土層があり1号土坑と同じである。断面23-24の5層は近世の自然堆積層と考えられ、この上には現代の埋土が堆積していた。Eトレンチからは少量のかわらけや土壁なども出土した。

位置	断面	検出標高 (m)	上部幅 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	備考
Bトレンチ	9-10	27.14	南北 0.9 東西 1.5	26.75	39	東調査区外に傾斜
Eトレンチ	23-24	27.12	東西 1.5	26.54	58	対象層位11層から東下の15層までの帯

## (5) 柱穴

柱穴はP1～6、9～14は掘乱あるいは現代の建物に伴っている。P17、18、22、23、24、25は1号溝に、21、7、26、15、16は4号溝に伴う位置関係である。調査範囲の関係で、配置の規則性は分からないが、1ヶ所につき2個セットの様な検出状況である。

第2表 柱穴観察表

No	掘り方 (cm)	柱穴跡 (cm)	底面標高 (m)	深さ (cm)	備考
1	39×37	12×9	27.09	67	調査区北側
2	40×34	14×14	27.09	53	調査区北側
3	36×28	20×17	27.10	60	調査区北側
4	37×34	—	27.14	64	調査区北側
5	40×38	—	27.08	20	
6	41×39	25×20	—	—	Eトレンチ西側
7	25×(11)	—	26.54	37	Aトレンチ断面11-12
8	25×—	—	26.51	28	Aトレンチ断面11-12
9	32×30	20×17	26.86	14	
10	37×27	13×11	26.92	20	
11	29×20	—	—	22	
12	(20)×31	(10)×12	26.58	27	
13	33×30	10×10	26.85	32	
14	38×26	17×20	26.70	41	
15	22×(14)	—	26.23	40	Dトレンチ
16	23×(25)	—	26.48	41	Dトレンチ
17	31×24	—	26.40	26	
18	37×41	—	26.47	14	
19	23×(10)	—	—	—	
20	(7)×15	—	—	—	
21	15×18	—	—	—	40次調査P18
22	35×(27)	—	26.33	18	Cトレンチ断面15-16
23	24×21	—	26.28	33	Cトレンチ
24	17×(7)	—	26.30	15	Eトレンチ
25	20×(17)	—	—	—	Eトレンチ断面23-24
26	9×9	—	—	—	

## (6) その他の遺構

Dトレンチ西側は土塁に伴う層が堆積している。その下には2号溝に切られた整地層がある。整地層下に溝状の凹凸があるが、トレンチの狭さから遺構の性格は不明である。整地層上の5層は2号溝に流れ込む腐植土と一連であることから2号溝と同時期と思われる。また5層にはかわらけが集中して出土した。

Eトレンチから調査区南にかけて、東側は掘乱が多く、また近世の盛土層もある。上層の盛土下に黒褐色の自然堆積層(Eトレンチでは5層・南トレンチでは8層)があり下の遺構と様相を分けている。3号溝に切られた状態で、かわらけや鉄滓など遺物を多く含む層(南トレンチでは14・15層)がある。自然流入した砂を含む層である。南の40次調査区では石敷の上に薄く砂の層が被った状態で瓦などが出土している。同じ起源であれば築地塀の崩壊に伴ったものと考えられる。

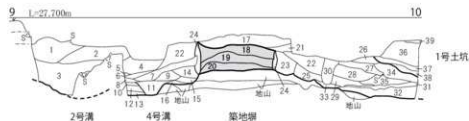
## 2 出土遺物

かわらけは、コンテナ2箱程度出土した。手づくね、ロクロ双方出土しているが、実測図可能な個体はロクロばかりであった。Dトレンチの土塁構築層下面の整地層境や2号溝からが多い。中国産陶磁器は白磁1点、褐釉陶器1点が出土した。陶器は25点出土した。土塁構築層や2号溝、調査区南側





BT-レンヂ



9-10

1. 2.5V6/1灰白粘土ブロック 10V95/2灰黄緑土5V7/6黄粘土ブロック混入
2. 2.5V8/1灰白粘土ブロック 5V7/6黄粘土ブロック少量含
3. 10G7/1明黄緑粘土 5G6/1緑灰粘土ブロック混入 下は隠埋層
4. 10V96/4にふい黄緑粘土 2.5V8/4黄緑粘土ブロック混入
5. 2.5V4/1黄緑粘土 2.5V8/4黄緑粘土ブロック混入
6. 2.5V7/4黄緑シルト 2.5V4/1黄緑土少量混入
7. 10V96/2黄緑粘土 2.5V8/3黄緑粘土ブロック 鉄分混入
8. 2.5V5/1黄緑粘土 鉄分含
9. 5V7/2灰白粘土 同砂含
10. 2.5V6/3黄緑粘土
11. 2.5V7/1灰白粘土 2.5V8/3黄緑粘土ブロック 砂混入
12. 2.5V7/1灰白砂 2.5V8/3黄緑粘土ブロック少量混入
13. 10G6/1緑灰粘土 5G7/1明オレンジ灰粘土ブロック混入
14. 10V96/4にふい黄緑シルト 10V96/2灰黄緑土2.5V8/3黄緑粘土ブロック混入
15. 10V96/4にふい黄緑砂 2.5V8/3黄緑粘土ブロック混入
16. 2.5V7/2灰黄緑土
17. 2.5V8/1黄緑シルト 2.5V7/1灰白粘土ブロックと2.5V2/1原黄緑粘土 鉄分含 覆土
18. 10V96/4にふい黄緑砂 2.5V7/1灰白粘土ブロック混入
19. 10V96/3にふい黄緑砂 2.5V7/3黄緑シルトブロック混入

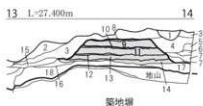
20. 2.5V7/2灰黄砂ブロック 10V96/4にふい黄緑砂-鉄分混入
21. 2.5V5/1黄緑シルト 2.5V7/1灰白粘土ブロック 鉄分混入
22. 10V96/4にふい黄緑砂 5V8/2灰白粘土少量含 鉄分含
23. 10V96/3にふい黄緑砂 5V8/2灰白粘土少量含 鉄分含
24. 7.5V7/1灰白シルト 5V8/2灰白シルトブロック混入
25. 10V95/3にふい黄緑シルト 2.5V7/3黄緑シルトブロック混入
26. 10V96/4にふい黄緑シルト 5V8/2灰白粘土
27. 10V96/4にふい黄緑シルト 2.5V7/6明黄緑粘土ブロック混入 鉄分含
28. 10V97/4にふい黄緑シルト 2.5V7/6明黄緑粘土ブロック混入
29. 2.5V7/2灰黄シルト 鉄分含
30. 5V7/1灰白シルト 鉄分含
31. 2.5V4/1黄緑シルト 鉄分含
32. 5V7/1灰白シルト 鉄分含
33. 2.5V7/1灰白砂 鉄分含
34. 5V7/1 灰白シルト 鉄分少量含
35. 2.5V6/1黄緑シルト 2.5V7/3黄緑粘土ブロック混入 鉄分含
36. 2.5V7/4黄緑粘土ブロック 2.5V6/2黄緑粘土混入
37. 10V94/1緑灰シルト 灰多量含 2.5V6/6明黄緑粘土ブロック 覆土混入
38. 2.5V6/6明黄緑粘土 10V94/1緑灰混入
39. 表土

ET-レンヂ



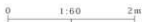
23-24

1. 2.5V6/6黄緑粘土 2.5V5/1黄緑粘土部混入 現代埋土
2. 10V94/1緑灰粘土 2.5V8/6黄緑粘土ブロック 鉄分含 覆土可能性有
3. 2.5V8/6黄緑粘土ブロック上
4. 10V95/2黄緑シルト 小たけしまり有 2.5V7/6明黄緑粘土に混入 鉄分含
5. 10V92/1層 10V97/4にふい黄緑粘土に混入 鉄分含
6. 2.5V7/4黄緑粘土 10V94/2灰黄緑粘土混入
7. 2.5V4/1黄緑粘土 鉄分含
8. 2.5V4/1黄緑粘土 鉄分含
9. 2.5V7/4黄緑粘土 2.5V7/6明黄緑砂ブロックと10V94/1緑灰粘土混入
10. 10V94/1緑灰粘土 2.5V8/6明黄緑粘土ブロック混入 覆土-砂混入
11. 2.5V8/6黄緑粘土ブロック 10V94/1緑灰粘土 混入
12. 2.5V4/1黄緑粘土 2.5V7/6明黄緑粘土少量混入
13. 2.5V5/1黄緑粘土 2.5V8/3にふい黄緑粘土ブロック混入 鉄分含
14. 2.5V6/2灰黄粘土 同砂含
15. 2.5V8/2黄緑粘土 同砂含
16. 2.5V6/4にふい黄緑土 2.5V8/4黄緑粘土混入
17. 5V3/3灰オレンジ粘土 5V6/4オレンジ黄緑粘土ブロック混入 2.5V4/2明黄緑粘土混入
18. 5V5/2灰オレンジ粘土 砂含
19. 2.5V6/2黄緑粘土 砂混入
20. 10G7/1明黄緑粘土 鉄分少量混入
21. 5V5/3灰オレンジ砂 5V6/4オレンジ黄緑粘土ブロックと5V4/2明オレンジ砂等が混入 同砂含
22. 10V5/2オレンジ灰砂 5G6/6オレンジ黄緑粘土ブロック混入 5V4/1灰粘土ブロック-黄緑粘土 柱状
23. 2.5V7/6明黄緑シルト 鉄分含 2.5V7/4黄緑粘土 10V94/1緑灰粘土混入



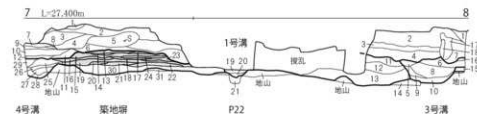
13-14

1. 10V95/3にふい黄緑粘土しまり有 粘性有 10V92/2黒砂と10V95/6黄緑ブロック-マンガン-鉄分含 P6埋土
2. 10V95/1灰粘土しまり有 粘性有 2.5V4/2灰オレンジ粘土混入 マンガン-鉄少量
3. 2.5V5/4黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑粘土ブロック混入 10V94/4緑粘土ブロック含 鉄少量
4. 2.5V5/4黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑粘土小ブロック混入 鉄分含 鉄少量
5. 2.5V5/3黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑粘土ブロック混入 マンガン含
6. 2.5V5/3黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑粘土ブロック混入 マンガン含
7. 2.5V5/3黄緑粘土しまり有 粘性有 マンガン含
7. 2.5V5/3黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑粘土ブロック 2.5V7/4黄緑砂質土含
8. 10V94/4緑粘土しまり有 粘性有 10V95/4にふい黄緑粘土ブロック混入 鉄少量
9. 10V95/4にふい黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑ブロック 2.5V7/4黄緑砂質土含 10V97/2にふい黄緑砂 鉄少量
10. 10V94/4緑粘土しまり有 粘性有 鉄少量
11. 2.5V7/4黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V5/4黄緑粘土 2.5V7/4黄緑砂質土 鉄分含
12. 2.5V5/3黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑粘土ブロック 鉄少量
13. 1層とP6埋
14. 2層とP6埋
15. 1層とP6埋で、10V95/1灰粘土上含
16. 5V7/2灰白粘土しまり有 粘性有 2.5V5/3黄緑砂質土 鉄分含
17. 2.5V6/4にふい黄緑しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑砂質土 鉄分含 鉄少量
18. 2.5V7/4黄緑粘土しまり有 粘性有 2.5V7/4黄緑砂質土混入 2.5V5/4黄緑粘土上 鉄分少量



第6図 断面図(2)

Cトレンチ



7-8(西側)

1. 2.5V2/1黒粘シルト 2.5V6/4に赤い黄土鉄分混入
2. 10V95/4に赤い黄粘粘土 5V6/1灰土10V96/6明黄粘粘土含
3. 5V5/3灰オーブ 5V6/3オーブ黄粘土ブロックと砂混入 鉄分多
4. 5V5/3灰オーブ粘土 5V6/3オーブ黄粘土ブロックと砂混入 鉄分含
5. 2.5V2/1黒粘シルト粘土 5V5/3オーブ粘土と砂混入 鉄分含
6. 5V5/3灰オーブ粘土 5V6/3オーブ黄粘土ブロックと砂混入 鉄分含
7. 2.5V7/4黄粘 10V95/4に赤い黄粘砂混入
8. 2.5V7/4黄粘 10V95/4に赤い黄粘砂混入 6層方粘土1/2
9. 5V7/2灰白粘土ブロンア 同砂混入
10. 2.5V7/2灰黄粘土ブロックと5V7/4黄粘粘土ブロンア 同砂混入 鉄分含
11. 2.5V7/2灰黄粘土ブロックと5V7/4黄粘粘土ブロンア 同砂混入 鉄分含
12. 2.5V6/4に赤い黄粘土ブロック
13. 2.5V6/4に赤い黄粘土 2.5V5/4黄粘粘土ブロックと砂少量混入
14. 10V95/6黄粘砂 2.5V5/4黄粘粘土少量混入
15. 5V6/3灰オーブ粘土 10V96/2灰黄粘粘土が特に西側に多く混入、東側には5V5/3灰オーブ砂が混入

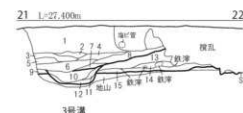
16. 2.5V6/4に赤い黄粘土ブロック
17. 5V6/3オーブ黄粘土
18. 5V6/6オーブ粘土 5V6/3オーブ黄粘土
19. 2.5V5/3黄粘シルト 同粘土混入 10V4/1褐灰・灰含
20. 2.5V6/4に赤い黄粘シルト
21. 2.5V6/4に赤い黄粘シルト 灰含
22. 2.5V5/3黄粘シルト 同粘土混入 10V4/1褐灰・灰含
23. 5V6/3オーブ黄粘土
24. 5V6/3オーブ黄粘土
25. 2.5V6/4に赤い黄粘土ブロック 2.5V7/6明黄粘粘土ブロック少量混入
26. 5V7/1灰白粘土混入
27. 5V7/1灰白粘土ブロック 5V7/3黄粘砂混入
28. 10V95/2灰黄粘粘土 5V7/2灰白粘土混入
29. 2.5V6/3に赤い黄粘
30. 2.5V5/3黄粘シルト 同粘土混入 10V4/1褐灰・灰含
31. 10V97/2灰白粘土 地山

7-8(東側)

1. 2.5V4/2灰黄粘土 10V95/6黄粘小粘土ブロック混入 鉄分含
2. 10V93/1黒粘粘土 土中に5V7/2灰白粘土ブロック混入 鉄分含
3. 5V6/3オーブ黄粘土 2.5V5/4黄粘砂 2.5V2/1黒粘粘土ブロック混入
4. 10V93/1黒粘粘土 10V94/1灰白粘土ブロック混入 2.5V5/3黄粘と5V7/4黄粘粘土ブロック少量混入
5. 2.5V6/2灰黄粘土 2.5V2/1黒粘土混入
6. 5V6/3灰オーブ粘土 同砂と灰混入
7. 10V93/1黒粘シルト 鉄分・灰少量混入
8. 5V5/1灰粘土
9. 5V3/1オーブ黄粘土 灰・砂含
10. 5V6/1灰粘土 下方に5V4/1灰が混入 東側に比同色(灰)砂も堆積

11. 5V4/1灰粘土 5V5/2灰オーブ混入 2.5V6/3灰黄粘土ブロックが下層に堆積 灰混入
12. 5V6/2灰オーブ粘土 同砂と灰が混入する 鉄分黄粘する
13. 5V6/3オーブ黄粘土ブロック 同砂と5V3/2黒粘粘土ブロック混入する 5V6/4オーブ粘土 地山
14. 2.5V5/3黄粘粘土 砂混入
15. 2.5V5/3黄粘粘土 砂混入
16. 10V93/2黒粘粘土 砂混入
17. 10V93/2黒粘粘土 2.5V6/4に赤い黄粘土ブロック混入 鉄分含 灰方
18. 2.5V4/1灰黄粘土 灰・砂混入
19. 10V93/1灰粘土 5V4/1灰粘土ブロック混入 灰含
20. 5V6/1灰粘土ブロック 灰少量含
21. P22黄粘混入 5V5/1灰砂 5V6/2灰オーブ粘土ブロック混入 灰少量含

南トレンチ(東側)

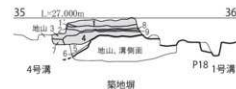


1. 2.5V4/2灰黄シルト 2.5V7/3黄粘粘土ブロック混入
2. 10V94/1褐灰粘土 土中に粘性有 10V94/2灰黄と5V5/1オーブ灰粘土小ブロックと含 粘性含
3. 2.5V4/1灰黄粘土 土中に粘性有 5V5/1オーブ灰粘土と鉄分含 灰少量
4. 2.5V2/1黒粘粘土 10V5/2オーブ灰粘土ブロック混入
5. 2.5V2/1黒粘粘土 10V7/1灰白粘土ブロック混入 土に砂多
6. 7.5V5/2灰オーブ粘土 鉄分・砂少量混入
7. 5V6/2灰オーブ粘土 土中に5V4/1灰黄粘土混入
8. 10V93/1黒粘粘土 土中に粘性有 5V5/1灰黄粘土混入 鉄分・灰含
9. 5V4/2灰オーブ粘土 土中に粘性有 5V5/1オーブ灰粘土と鉄分少量
10. 5V5/2灰オーブ粘土
11. 2.5V4/1灰黄粘土 土中に粘性有 5V5/1オーブ灰粘土含 灰・鉄分少量
12. 7.5V4/1灰粘土 下位に砂と灰含
13. 5V5/2灰オーブ粘土 2.5V7/2灰白粘土ブロック混入
14. 5V6/1灰粘土 5V5/2灰オーブ粘土混入 下位に同色中
15. 2.5V4/2黄粘粘土 同砂と鉄分多 灰含



第7図 断面図(3)

40次トレンチ



35-36

- 2.5V5/4黄粘土ブロック 10VRS/6黄粘土と5V7/4黄粘土ブロックなど混状に混入
- 2.5V5/4黄粘土ブロック 10VRS/6黄粘土と5V7/4黄粘土ブロックなど混状に混入 10VRS/4粘土ブロック混入
- 2.5V7/4黄粘土ブロック 2.5V4/2黄粘土混状に混入
- 2.5V7/4黄粘土ブロック 7層には2.5V5/3黄粘土ブロック多く混入
- 2.5V5/2黄粘土ブロック 2.5V6/2黄粘土ブロック混入
- 2.5V6/3に多い黄粘土ブロック
- 2.5V4/1黄粘土 粘土 黄粘
- 2.5V7/2黄粘土ブロック
- 5V7/3黄粘土ブロック
- 10VRS/4粘土ブロック 5V7/3黄粘土少量混入
- 地山 2.5V7/2黄粘土 2.5V6/4に多い黄砂混入

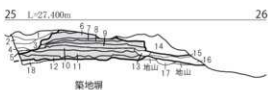
39 1:27,000 40



39-40

- 4層は15-36/1-4層対応
- 10VRS/4に多い黄粘土
- 2.5V9/1粘土

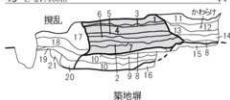
南トレンチ(西側)



25-26

- 10VRS/3に多い黄粘土と2.5V6/3に多い黄粘土がレンズ状に堆積 東側土ブロック状 鉄分含有
- 10VRS/3に多い黄粘土と2.5V6/4に多い黄粘土と2.5V7/4黄粘土ブロック混入 鉄分含有
- 10VRS/3に多い黄粘土と2.5V6/4に多い黄粘土と2.5V7/4黄粘土ブロック混入 鉄分含有
- 5V7/2黄粘土 2.5V6/3に多い黄粘土混入
- 10VRS/3に多い黄粘土 鉄分含有
- 2.5V6/4に多い黄粘土ブロック 10VRS/3に多い黄粘土混入 上層116層29号が混入
- 2.5V6/4に多い黄粘土ブロック 10VRS/3に多い黄粘土6層より多く混入
- 2.5V6/4に多い黄粘土ブロック 10VRS/3に多い黄粘土6層に入る
- 2.5V6/4に多い黄粘土ブロック 10VRS/2黄粘土混入
- 10VRS/2黄粘土 2.5V6/4に多い黄粘土混入
- 2.5V7/4黄粘土ブロック 同砂と2.5V7/3黄粘土ブロック 10VRS/2黄粘土ブロック混入 西側に砂を多く含む
- 10VRS/2黄粘土ブロック 10VRS/2黄粘土と2.5V7/3黄粘土ブロック等が混入 西側に2.5V7/4黄粘土ブロックが入る
- 10層と2層は4層層 10VRS/2黄粘土と2.5V7/2黄粘土ブロックと10VRS/4に多い黄粘土ブロック等が混入
- 13層55号から 10VRS/4粘土 2.5V6/4に多い黄粘土ブロック混入 東側下位5V5/1黄砂堆積する
- 2.5V6/4に多い黄粘土 2.5V6/2黄粘土ブロックと10V5/2黄粘土混入
- 12層に多い 10V5/1粘土 2.5V4/2黄粘土が混入 10VRS/2黄粘土ブロック混入
- 10V5/2黄粘土 10V5/1粘土ブロック混入
- 10V5/2黄粘土 10V6/1粘土ブロック混入 2.5V6/1に多い黄砂 5V7/2黄粘土ブロック混入 地山

43 1:27,000



43-44

- 10VRS/4粘土ブロック 10VRS/6黄粘土とブロック混入
- 10VRS/2に多い黄粘土 10VRS/3粘土混入 10VRS/2黄粘土 同少量 鉄分含有
- 10VRS/4粘土ブロック 10VRS/6黄粘土とブロック混入
- 10VRS/6黄粘土と2.5V7/2黄粘土ブロックと10VRS/4粘土ブロックなど少量
- 10VRS/4に多い黄粘土 同砂と5V7/2黄粘土少量
- 5V7/2黄粘土 10VRS/4に多い黄粘土と2.5V6/4黄粘土ブロック少量混入
- 5V7/2黄粘土 10VRS/4に多い黄粘土 同砂と鉄分含有
- 10VRS/3に多い黄粘土と2.5V7/4黄粘土ブロック混入
- 10VRS/6黄粘土と10VRS/2黄粘土ブロック混入
- 10VRS/2黄粘土と2.5V4/2黄粘土と2.5V5/1黄粘土と5V7/3黄粘土とブロック混入 混入
- 10VRS/2黄粘土と2.5V6/1黄砂と混入 混入 2.5V6/1黄砂と10VRS/2黄粘土と混入
- 10VRS/4粘土と2.5V7/3黄粘土と小ブロック混入 鉄分含有
- 10VRS/3に多い黄粘土 5V7/3黄粘土とブロック混入 鉄分含有
- 10VRS/4に多い黄粘土 2.5V7/2黄粘土とブロック混入 鉄分含有
- 10VRS/2に多い黄粘土 10VRS/2黄粘土 鉄分混入 10VRS/3に多い黄粘土 同含有
- 10VRS/2に多い黄粘土 10VRS/2に多い黄粘土 10VRS/2黄粘土と鉄分含有
- 10VRS/2に多い黄粘土 10VRS/2黄粘土 鉄分含有 地山
- 10VRS/2粘土と2.5V6/3に多い黄粘土など混入
- 5V5/2黄粘土と2.5V6/2黄粘土とブロック
- 5V5/4黄粘土と粘土とブロック 5V4/2黄粘土と砂混入
- 2.5V6/1黄砂と粘土 10VRS/2黄粘土と混入 鉄分含有
- 5V5/2黄粘土と2.5V4/2黄粘土と2.5V5/2黄粘土と砂混入

15 1:27,000 16



15-16

- 5V6/2黄粘土と2.5V4/2黄粘土と2.5V6/2黄粘土とブロック混入
- 5V6/2黄粘土と5V6/2黄粘土とブロックと同砂
- 5V6/2黄粘土と5V4/1黄粘土混入 混入
- 5V6/3黄粘土と5V5/2黄粘土と砂混入 2.5V5/1粘土と2.5V4/6粘土と黄粘土とブロック混入 鉄分含有 粘状

19 1:27,000 20



19-20

- 5V6/2黄粘土と2.5V4/2黄粘土と2.5V6/2黄粘土とブロック混入
- 5V6/2黄粘土と5V4/1粘土混入 混入

29 1:27,000 30



29-30

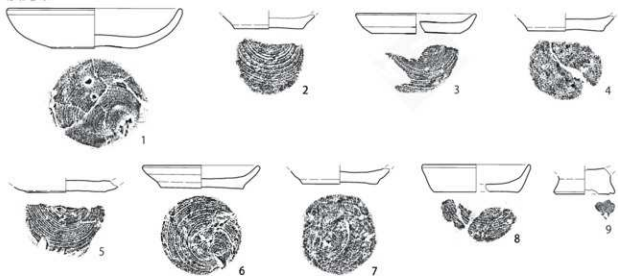
- 10VRS/2黄粘土 鉄分含有
- 10VRS/2黄粘土と5V4/1粘土混入 混入



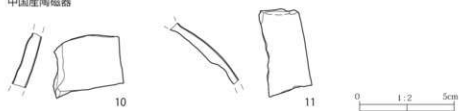
第8図 断面図(4)



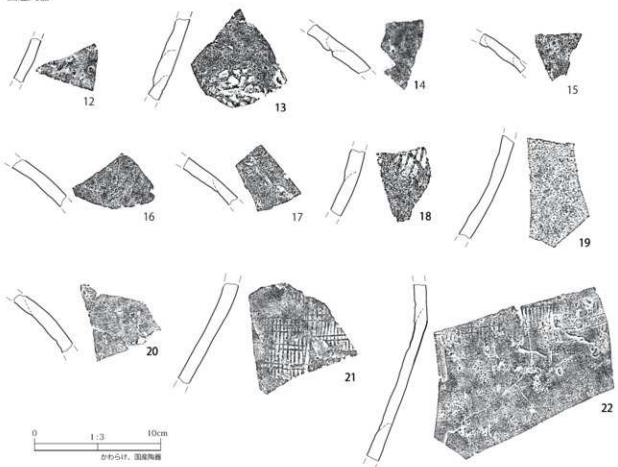
かわらけ



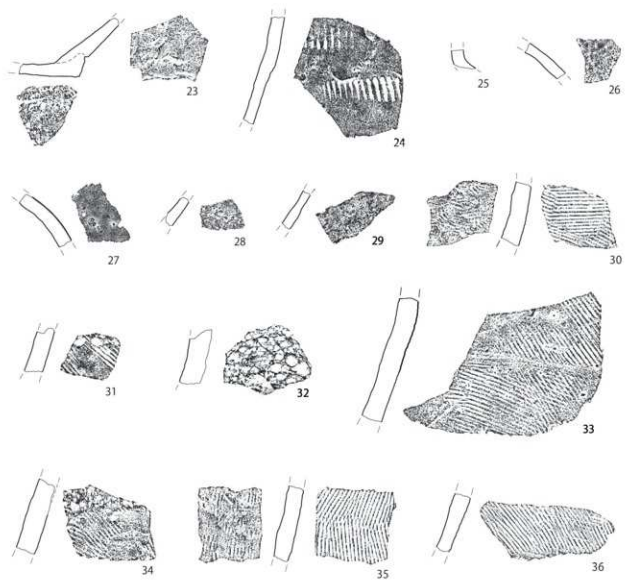
中国産陶磁器



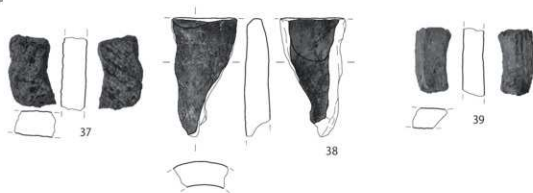
国産陶器



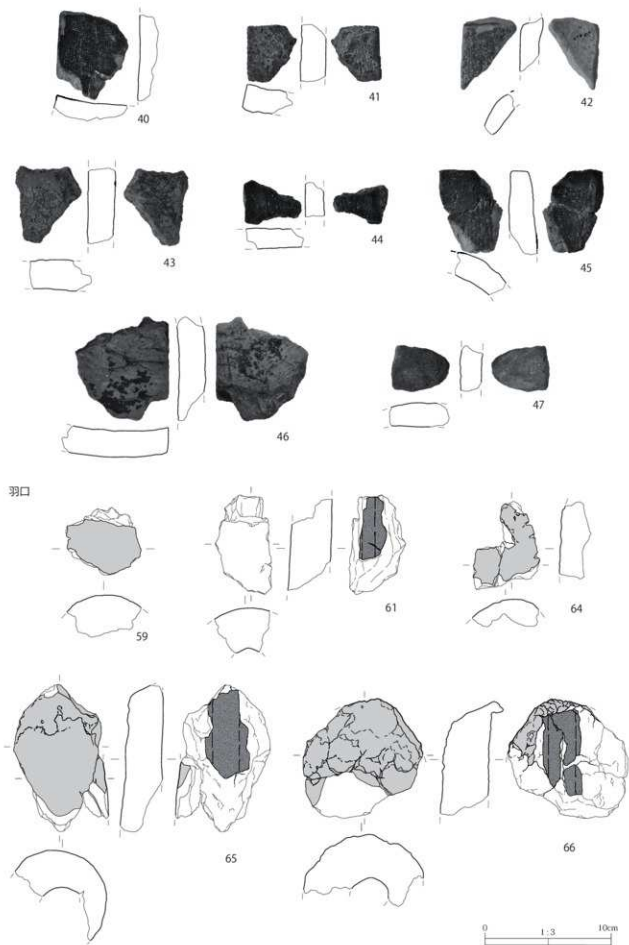
第10図 出土遺物（1）



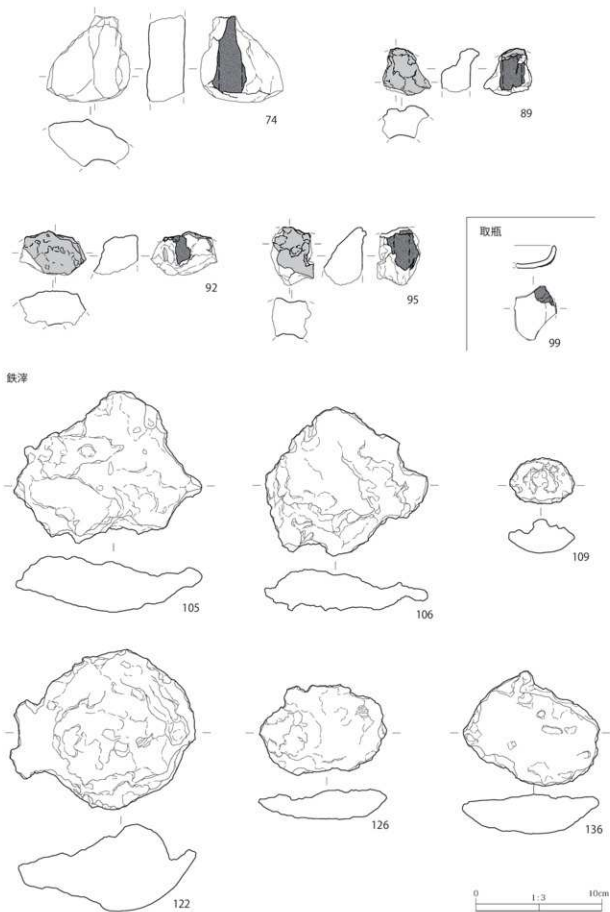
瓦



第11圖 出土遺物(2)



第12図 出土遺物(3)



第13図 出土遺物(4)



第3表 かわけ観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量(cm)			残存率 (%)	備 考	登録No
					口径	底径	器高			
1	11	8	Dトレンチ西側 断面17'-18' 5層	ロクロ 大	13.9	6.8	3.1	60	151-4と接合 反転実測	141
2	11	8	北側調査区 築地下層	ロクロ 小	—	5.4	—	40	底部のみ 反転実測 摩滅	20
3	11	8	Dトレンチ西側 5～7層	ロクロ 小	9.6	7.0	1.3～1.6	30	反転実測	155
4	11	8	南トレンチ東側 12～13層	ロクロ 小	—	6.0	—	50	326と接合 底部のみ 摩滅	331
5	11	8	Dトレンチ東側 2号溝埋土	ロクロ	—	6.2	—	30	底部のみ 反転実測 摩滅	345
6	11	8	Dトレンチ西側 5～7層	ロクロ 小	9.3	6.4	1.6～2.0	—	—	357
7	11	8	Cトレンチ南側 築地の基礎層	ロクロ 小	—	6.0	—	60	底部のみ 反転実測 摩滅	362-1
8	11	8	Eトレンチ東側 築地跡崩壊層	ロクロ 小	8.6	6.6	2.2	30	内外面被熱 反転実測 摩滅	128
9	11	8	Aトレンチ 2号溝下層	柱状高台	—	4.8	—	20	反転実測	230

第4表 中国産陶磁器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備 考	登録No
10	11	8	Cトレンチ東側 下層	白磁	壺	胴	12C	皿系 軸有 内面に軸	140
11	11	8	全体清掃	褐輪陶器	壺	頸～肩	12C	—	2-9

第5表 国産陶器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備 考	登録No
12	11	8	全体清掃	常滑	壺	胴	12C	—	2-2
13	11	8	調査区北側築地地面(土塁構築層)	常滑	甕	胴	12C	押印有	18
14	11	8	Bトレンチ西側 表土埋土	常滑	甕	肩	12C	外面軸有	54-2
15	11	8	Dトレンチ周辺 土塁構築層	常滑	甕	肩	12C	軸あり	116
16	11	8	Dトレンチ西 土塁構築層	常滑	甕	肩	12C	—	124-2
17	11	8	Dトレンチ西側 断面17'-18' 5層	常滑	甕	肩	12C	—	142
18	11	8	2号溝埋土	常滑	甕	胴	12C	押印有	147
19	11	8	Aトレンチ 2号溝 断面11-12 6層	常滑	甕	胴	12C	—	226
20	11	8	南トレンチ東側 近世盛土	常滑	甕	肩	12C	—	282
21	11	8	南トレンチ東側 盛土下 黒色土層	常滑	甕	胴	12C	押印有	310
22	11	8	南トレンチ東側 14層	常滑	甕	胴	12C	171と接合 軸有 押印有	329
23	12	8	Eトレンチ東側 堆積層	常滑	甕	底	12C	—	175
24	12	8	調査区北側 土塁構築層	瀬美	甕	胴	12C	押印有	110
25	12	8	Dトレンチ東側 2号溝埋土 上層粘土層	瀬美	甕	頸部	12C	—	233
26	12	8	Dトレンチ東側 2号溝埋土	瀬美	甕	肩	12C	軸有	153
27	12	8	Eトレンチ東側 近世盛土	瀬美	甕	肩	12C	軸有	242
28	12	8	Cトレンチ 表土下 盛土層	瀬美	鉢	体	12C	—	122-2
29	12	8	Eトレンチ東側 東落ち込み ブロック層	瀬美	甕	胴	12C	—	248
30	12	9	Aトレンチ 築地崩壊層	須志器系	甕	胴	12C	内外面押印有	71
31	12	9	杭6・8間覆瓦清掃	須志器系	甕	胴	12C	押印有	90-3
32	12	9	調査区北側 土塁構築層	須志器系	甕	胴	12C	外面剥離	111
33	12	9	Dトレンチ周辺 土塁構築層	須志器系	甕	胴	12C	押印有	117
34	12	9	北側調査区 覆瓦	須志器系	甕	胴	12C	押印有 剥離有	118
35	12	9	Dトレンチ西側 断面17'-18' 5層	須志器系	甕	胴	12C	内外面押印有	127
36	12	9	南トレンチ東側 13層	須志器系	甕	胴	12C	押印有	326-2

第6表 互観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量(cm)			重量 (g)	備 考	登録No
					長さ	幅	厚さ			
37	12	9	Bトレンチ 築地御東側 崩壊層	平瓦	5.5	3.2	1.8	50.5		93
38	12	9	Bトレンチ 築地御東側 崩壊層	丸瓦	9.4	5.1	1.9	83.2		106-1
39	12	9	南トレンチ埋土	平瓦	5.1	2.4	1.7	33.0		172-2
40	13	9	南トレンチ東側 覆乱下 14~15層	平瓦	6.7	5.6	1.3	49.4		209
41	13	9	南トレンチ東側 14~15層	平瓦	4.4	3.8	2.0	44.1		344
42	13	9	南トレンチ東側 盛土下黒色土層	丸瓦	6.3	5.0	1.4	39.8	玉縁との接合部か	298
43	13	9	Eトレンチ東側 下層	平瓦	5.8	4.8	2.3	71.9		349-2
44	13	9	南トレンチ東側 13層	平瓦	4.5	3.4	1.5	22.6		203
45	13	9	南トレンチ東側 覆乱下 14~15層	丸瓦	6.5	4.5	2.1	75.6	214と接合	213
46	13	9	40次トレンチ東側 下層	平瓦	8.2	7.8	2.1	186.5		238
47	13	9	Cトレンチ南側 築地の基礎層	丸瓦	4.7	3.5	1.8	33.7		361

第7表 羽口観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	法 量(cm)			重量 (g)	備 考	登録No
				長さ	幅	厚さ			
48	-	-	Bトレンチ東側 1号土坑	1.6	1.4	0.8	2.2		59-2
49	-	-	Bトレンチ東側 1号土坑 炭層~粘土層	1.0~4.2	0.7~2.8	0.4~2.9	51.6	12点	91-5
50	-	-	Cトレンチ東側 盛土層	2.4	1.8	1.2	5.4		122-3
51	-	-	Cトレンチ東 現代埋土	1.4~3.5	1.0~2.8	0.6~1.3	17.5	3点	243-2
52	-	-	Cトレンチ東側 砂層	3.4	2.5	1.4	13.5		108-2
53	-	-	Cトレンチ東側 粘土層	1.4~5.5	1.2~3.5	1.1~3.0	74.8	6点	109-2
54	-	-	Cトレンチ東側 13層	2.0~4.9	1.2~4.0	0.9~1.1	26.7	3点	321-2
55	-	-	Cトレンチ東側 断面7-8 13層	1.2~3.8	0.7~1.8	0.6~1.6	15.1	3点	311-1
56	-	-	Cトレンチ東側 盛土ブロック層	2.0	1.0	1.2	2.2		288-2
57	-	-	Cトレンチ東側 近世埋土下 自然堆積	2.0~4.0	1.3~3.0	1.0~2.3	35.6	4点	272-2
58	-	-	Dトレンチ 西拉張 2層土層構築層	2.8~3.5	1.6~2.5	0.5~1.0	14.4	2点	289-2
59	13	10	Eトレンチ東側 下位	6.0	5.4	3.0	70.3		354
60	-	-	Eトレンチ東側 下位	2.0	1.4	1.8	4.5		324-1
61	13	10	Eトレンチ東側 下位	7.9	4.5	3.1	81.7		305
62	-	-	Eトレンチ東側 下位 17層	0.5~5.4	0.3~3.8	0.2~2.7	31.9	2点	350-1
63	-	-	Eトレンチ東側 近世堆積層	1.0~5.0	0.8~3.5	0.7~3.0	41.6	4点	274-2
64	13	10	Eトレンチ東側 近世堆積層	7.0	5.3	2.4	43.8		274-9
65	13	10	Eトレンチ東側 東落ち込み	11.7	7.5	3.2	215.7	178と接合	176
66	13	10	Eトレンチ東側 東落ち込み	9.3	9.5	3.6	285.2	198-2、200-4と接合	196
67	-	-	Eトレンチ東側 東落ち込み ブロック層	1.7~3.3	1.0~1.5	1.1~2.4	20.3	3点	300-2
68	-	-	Eトレンチ東側 東落ち込み ブロック層	4.2	2.8	1.6	15.4		251
69	-	-	Eトレンチ東側 東落ち込み ブロック層	2.4	1.7	2.4	5.9		315-2
70	-	-	Eトレンチ東側 東落ち込み 黄色粘土層	3.3	3.0	1.7	14.3		200-2
71	-	-	Eトレンチ東側 表土	4.2	2.1	1.7	10.5		241
72	-	-	南トレンチ西側 覆乱下 整地層	3.0~3.2	1.5~1.7	1.4~1.6	12.3	2点	220-1
73	-	-	南トレンチ西側 覆乱下 整地層	1.1~3.6	0.8~3.0	0.5~1.7	90.5	19点	220-2
74	14	10	南トレンチ東側 13層	6.8	6.6	3.5	113.7		184
75	-	-	南トレンチ東側 13層	3.3	3.0	2.5	26.9		180
76	-	-	南トレンチ東側 13層	3.0	2.0	1.2	6.4		181
77	-	-	南トレンチ東側 13層	5.0	4.2	1.1	31.1		182
78	-	-	南トレンチ東側 13層	3.4	3.0	3.0	21.6		186-1
79	-	-	南トレンチ東側 13層	3.0	2.5	1.8	12.9		188
80	-	-	南トレンチ東側 13層	4.5	3.5	1.5	31.1		189
81	-	-	南トレンチ東側 13層	4.5	3.7	1.1	17.4		326-3

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	法 量(cm)			重量 (g)	備 考	登録No
				長さ	幅	厚さ			
82	-	-	南トレンチ東側 13層	2.5~5.0	1.2~4.0	1.1~3.8	51.8	3点	327-2
83	-	-	南トレンチ東側 13層下	1.9~5.1	0.7~4.5	0.5~2.0	45.3	3点	328-2
84	-	-	南トレンチ東側 13~14層	1.0~4.0	0.9~3.0	0.7~2.6	55.5	9点	201-1
85	-	-	南トレンチ東側 13~14層	1.6~2.8	1.0~1.7	0.5~1.8	16.5	5点	201-2
86	-	-	南トレンチ東側 13~14層	1.2~4.5	0.7~3.5	0.5~3.0	181.4	33点	202-1
87	-	-	南トレンチ東側 14層	5.4	3.8	1.4	24.1		192
88	-	-	南トレンチ東側 14層	7.8	4.5	3.0	70.8		193
89	14	10	南トレンチ東側 14~15層	3.7	3.9	2.5	23.9		334
90	-	-	南トレンチ東側 14~15層	3.7	3.6	2.3	25.9		343
91	-	-	南トレンチ東側 14~15層	1.5~2.8	1.5~2.6	1.4~1.5	13.4	2点	351-2
92	14	10	南トレンチ東側 近世盛土	3.5	5.3	2.7	43.7		301
93	-	-	南トレンチ東側 近世盛土	1.1~3.0	1.4~2.4	0.9~1.5	19.2	4点	245-2
94	-	-	南トレンチ 近世盛土	1.6~3.5	1.2~3.0	0.4~1.6	11.6	2点	293-4
95	14	10	覆瓦清冊	4.6	2.9	3.0	44.2		15-3
96	-	-	北側覆瓦	0.6~1.5	0.5~1.2	1.5~4.4	2.1	2点	24-2
97	-	-	竪6-8周辺覆瓦表土	2.0~5.5	1.0~5.0	0.6~3.0	84.2	3点	163-2
98	-	-	南側覆瓦	4.0	2.6	1.5	22.3		25-4

第8表 土製品観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	重量 (g)	法 量(cm)		備 考	登録No
					長さ	幅		
99	14	10	Eトレンチ東側 黒色粘土層	取調	1.8	0.4	一部 紙物付着	169-2

第9表 種子観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	大きさ(cm)	備考	登録No
100	-	10	Aトレンチ 2号溝 6層	桃類	2.8~3.2	3個(1/2 1個合)	72-3
101	-	10	Aトレンチ 2号溝 6~8層	桃類	2.6	1/2 1個	82-3
102	-	10	Aトレンチ 2号溝底 9層	桃類	2.8	1個	103-2

第10表 鉄滓観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	大きさ(cm)	重量(g)	磁着	備考	登録No
103	-	-	Aトレンチ 2号溝 炭層	5.5×4.0	19.2	有		74
104	-	-	Aトレンチ 2号溝 炭積層	4.0×2.0	7.3	有		56-4
105	14	10	Bトレンチ 1号土坑	12.1×14.9	498.6	有		62
106	14	10	Bトレンチ 1号土坑 炭層	11.8×12.9	348.1	有		64
107	-	-	Bトレンチ東側 1号土坑	1.0~3.5	35.1	有	4点	59-4
108	-	-	Bトレンチ東側 1号土坑 炭層	1.5~9.8	264.3	有	2点	65
109	14	10	Cトレンチ東側 盛土層	3.7×5.1	46.5	有		122-9
110	-	-	Cトレンチ東側 盛土ブロック層	0.5~5.5	102.8	有	18点	288-4
111	-	-	Cトレンチ東側 粘土ブロック層	1.9~3.6	37.2	有	5点	323-2
112	-	-	Cトレンチ東側 粘土ブロック層	0.9~3.4	28.5	有	5点	323-3
113	-	10	Cトレンチ東側 粘土層	8.9×4.5	103.4	有		109-4
114	-	-	Cトレンチ東側 近世埋土下 自然堆積	2.3~4.5	42.1	有	2点	246
115	-	-	Cトレンチ東側 近世埋土下 自然堆積	1.1~5.7	180.9	有	16点	272-3
116	-	-	Cトレンチ東側 3号溝	4.0×3.4	54.1	有		276
117	-	-	Cトレンチ東側 3号溝上 砂層	1.6~3.5	15.0	有	2点	270
118	-	-	Eトレンチ東側 下層	1.5~3.8	20.6	有	2点	324-3
119	-	-	Eトレンチ東側 下層	0.9~3.0	22.8	有	4点	355
120	-	-	Eトレンチ東側 東落ち込み 黄色粘土層	0.7~5.8	69.4	有	9点	200-3

## IV まとめ

今回の調査では、40次調査で確認した無量光院以前の築地塼や、2号溝の追跡と無量光院段階での遺構確認を目的としていたため、南北に長い調査区を設定した。調査の結果、築地塼と2号溝の延長は確認することができ、周辺の遺構も検出している。

北側のDトレンチでは、表土直下で遺構を検出しており、南側に比べ擾乱の影響が少ない場所であった。残存状況が良好であったため、築地塼の崩壊土と思われる層が厚く堆積していた。その上面を2号溝が掘りこんでおり、2号溝は築地塼より新しいことが確認されたことは大きな成果である。これはAトレンチでも同様の傾向であった。また2号溝より古い遺構ではDトレンチ西側の窪みや整地層、Aトレンチの整地層がある。整地層下にはかわらけを多く含む灰色系の堆積土もあり、整地前の段階にも土地利用がされていることが分かる。

検出遺構の帰属年代は、主に12世紀であり、奥州藤原氏三代秀衡の時期とそれ以前、以後に分けられる。無量光院東側土塁を構築した段階では、土塁が2号溝を覆っている状態であり、2号溝は土塁以前と考えられ、無量光院以前の遺構である。また、前述のとおり2号溝は築地塼より新しいことが確認されている。1号溝と4号溝については、築地塼及びその崩壊土の下にあることから、築地塼以前と考えられるが、築地塼と並行関係にあることから、隣接する柱穴を考慮すると築地塼造営時に伴う可能性もあるのかもしれない。4号溝は40次トレンチの箇所で屈曲している点も気がかりである。

1号土坑については、築地の崩壊土上面にあることから築地塼よりは新しい遺構である。範囲はBトレンチからEトレンチにかけて同様の広がりがあることから、東側への落ち込みに堆積した範囲の可能性があり、その範囲は調査区外にも続く様子である。年代については、出土遺物から12世紀中と考えられる。

3号溝は、33次で検出しているSD6と一連の遺構で、近世の道路側溝と考えられる。しかし、埋土に近世の遺物が伴っていない。

最後に33次調査（平成27年度）40次（平成30年度）46次（令和元年度）の検出遺構について、全体での延長や新旧関係について触れたい。

- ・築地塼は、46次調査結果と40次調査、その南の33次調査北側の壁まで合わせると確認した延長は38mで、直線に伸びている。途中40次調査の石敷の箇所では途切れている。
- ・46SD1は40次調査の雨落ち溝の方向に向いているが、一連の遺構かは不明である。
- ・46SD2は33次調査区までの延長は43m確認した。底面は北側に向かって低くなっている。
- ・46SD3は位置や方向から40次では6号溝、33次ではSD6と同一遺構と考えられる。
- ・46SD4は、場所により埋土の状態が異なり、一連の遺構か不安なところもある。重複関係から築地塼より古い遺構であるが、位置関係から築地塼に関連した遺構の可能性が残されている。なお、40次調査では1号溝に、33次調査ではSD4に対応する可能性がある。

今回の出土遺物については12世紀が主体ではあるが、表土や擾乱からも出土している。鉄滓や羽口が多く出土する傾向があり、12世紀にこの周辺に工房があったことがうかがえる資料である。また、堆積層や表土にも遺物が多く混在しており、近世～現代まで攪拌が著しい様相がうかがえる。



第14図 遺構配置図

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	大きさ(cm)	重量(g)	磁着	備考	登録No
121	-	-	Eトレンチ東側 東落ち込み 断面23-24 9層	8.5×4.0	117.2	有		318
122	14	10	西依張 表土	12.7×14.1	728.2	有	伊底津	12-8
123	-	-	南トレンチ 整地層	6.6×3.7	43.8	有		205
124	-	-	南トレンチ西側 覆乱下 整地層	3.8~7.5	142.8	有	2点	204
125	-	-	南トレンチ西側 覆乱下 整地層	0.8~4.5	120.0	有	21点	220-4
126	14	10	南トレンチ東側 13層	6.8×10.1	190.5	有		185
127	-	-	南トレンチ東側 13層	1.5~6.0	93.6	有	2点	183
128	-	-	南トレンチ東側 13層	6.0×6.0	93.5	有		187
129	-	-	南トレンチ東側 13層下	1.1~4.2	71.8	有	10点	327-3
130	-	-	南トレンチ東側 13層下	1.0~3.0	13.0	有	4点	328-3
131	-	-	南トレンチ東側 13層対応	1.0~5.5	329.5	有	21点	326-6
132	-	10	南トレンチ東側 覆乱下 13~14層	10.5×7.0	449.3	有		212
133	-	-	南トレンチ東側 覆乱下 13~14層	6.3×4.8	114.8	有		210
134	-	-	南トレンチ東側 13~14層	0.7~5.0	205.1	有	38点	201-3
135	-	-	南トレンチ東側 13~14層	0.7~8.2	283.8	有	19点	202-2
136	14	10	南トレンチ東側 14層	9.1×10.8	334.3	有		330
137	-	-	南トレンチ東側 14層	1.8~4.5	66.1	有	2点	190
138	-	-	南トレンチ東側 14層	0.9~6.6	58.0	有	4点	191
139	-	-	南トレンチ東側 14層	6.0×4.0	22.1	有		194
140	-	-	南トレンチ東側 14層	5.3×5.3	79.0	有		195

# 写真図版





断面17-18 (南東から)



西側遺物出土状況 (南から)



東側川原石出土状況 (南から)



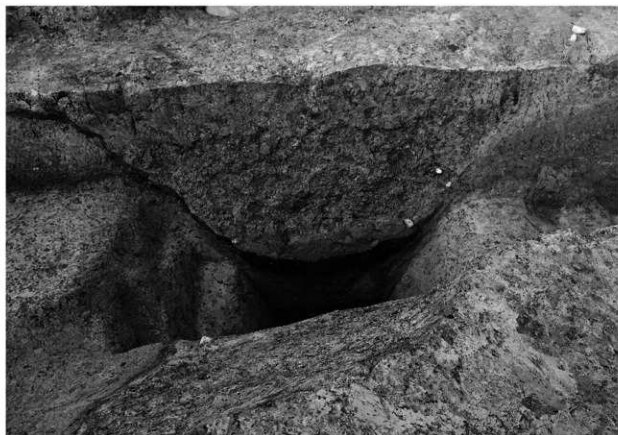
土塁構築層 (南から)



築地堀断面 (南から)

写真図版1 Dトレンチ





2号溝 断面11-12（南から）



築地塀 断面11-12（南東から）

写真図版2 Aトレンチ



Aトレンチ周辺 (南から)



4号溝 断面11-12 (南から)



Bトレンチ 2号溝 断面9-10 (南から)



Bトレンチ 2号溝 種出土状況



Bトレンチ 4号溝 断面 (南から)



Bトレンチ 断面9-10 (南東から)



Bトレンチ東側 (南から)



1号土坑遺物出土状況

写真図版3 A・Bトレンチ



築地塀 断面13-14 (北西から)



トレンチ中央 (北から)



築地塀断面 (北から)



トレンチ東側 断面23-24 (北から)



東落ち込みの状況 (南から)

写真図版4 Eトレンチ



Cトレンチ西側 断面7-8 (南から)



築地塀 断面7-8 (南東から)



トレンチ中央 (南から)



P23と1号溝 断面15-16 (北から)



調査区南側の状況 (西から)

写真図版5 Cトレンチ・調査区南側



40次トレンチ 築地塀 断面35-36 (南から)



4号溝 断面39-40 (西から)



築地塀 断面43-44 (北から)



調査状況 (南から)



調査区南側 (西から)

写真図版6 40次トレンチ・調査区南側



築地堀 断面25-26 (南から)



3号溝 断面7-8 (南から)



Cトレンチ 3号溝の状況 (北から)

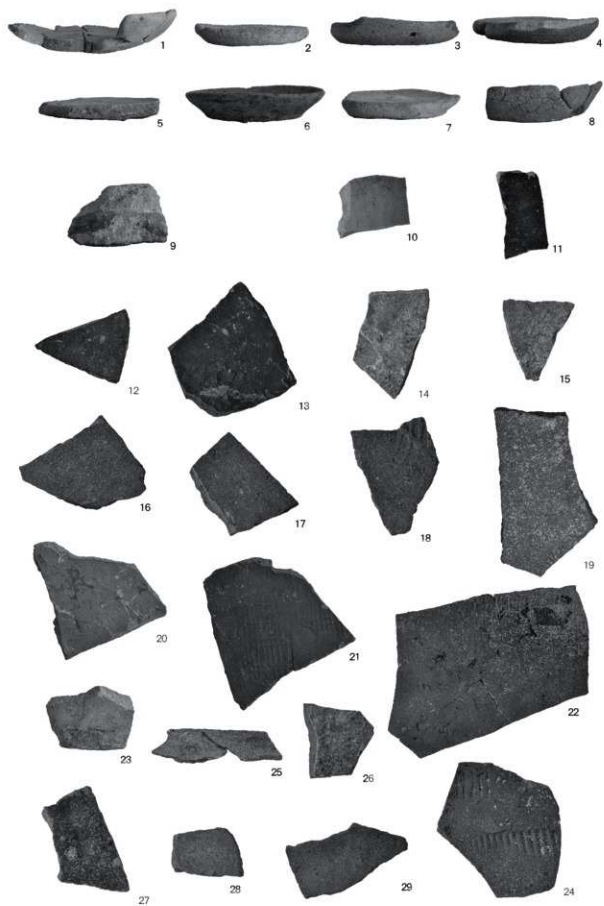


3号溝 断面21-22 (北から)

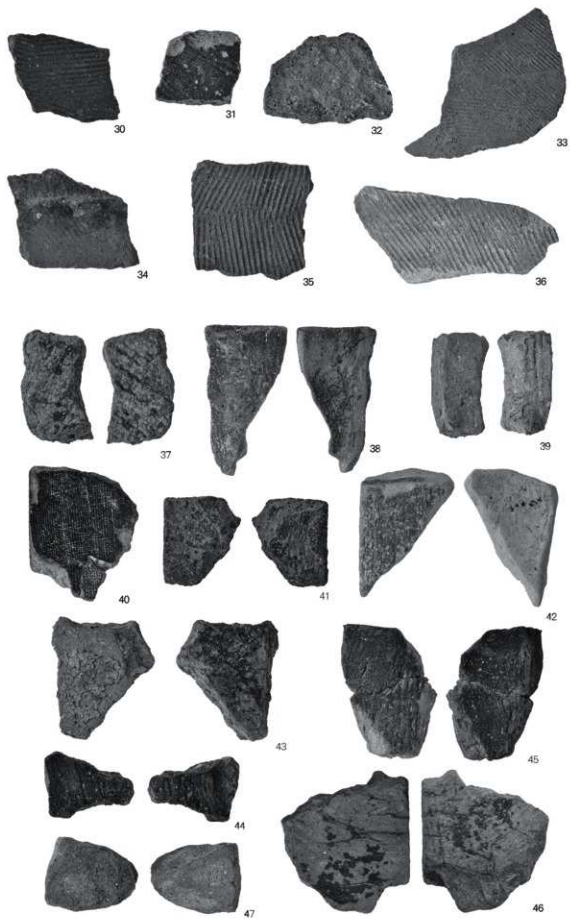


南トレンチ 15層遺物出土状況 (北から)

写真図版7 Cトレンチ・南トレンチ

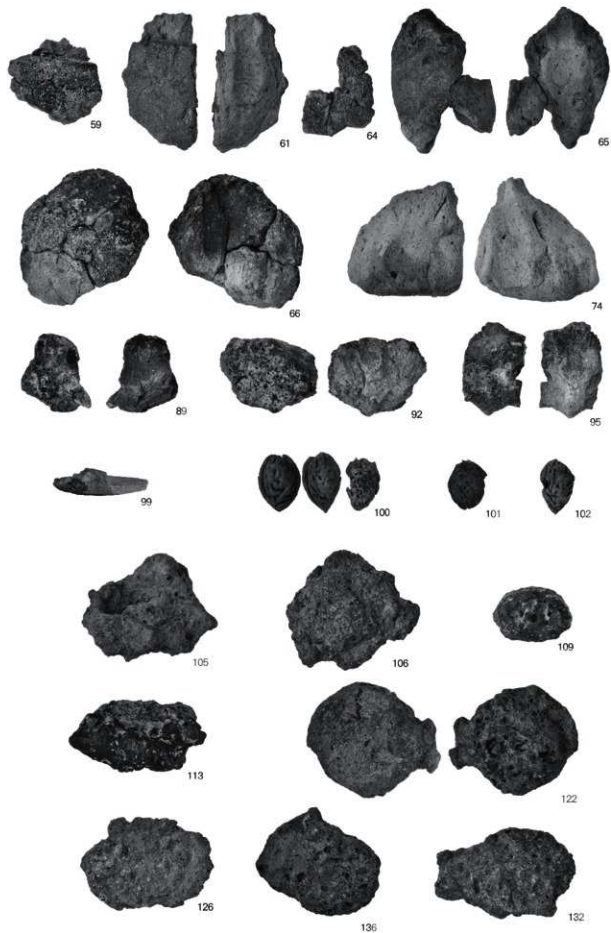


写真図版8 出土遺物(1)



写真図版9 出土遺物（2）





写真図版10 出土遺物（3）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	とくべつしせきむりょうこういんあとはくつちょうさほうこくしょ							
書名	特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVII							
副書名	第46次調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第137集							
編著者名	島原弘征 鈴木江利子							
編集機関	平泉町教育委員会							
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 電話(0191)46-2111☎							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むせうこういんあま 無量光院跡	いわてけん にしひがひけん 岩手県西磐井郡 ひらいずみちよう 平泉町 ひらいずみあまほなだて 平泉字花立地内	03402	NE76-1007	38° 59′ 33″	141° 07′ 02″	20190819～1101	120㎡	史跡整備 を目的と した内容 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
無量光院跡	寺院	12世紀	土塁 整地層 築地塀 溝 柱穴	かわらけ 中国産磁器 国産陶器 瓦 羽口 鉄滓 土師器 植物遺体				
要約	<p>無量光院跡東側土塁と土塁外側を対象とした内容確認調査である。調査の結果、無量光院造営時の整地層下から、12世紀の溝や築地塀が確認された。</p> <p>確認された築地塀は40次調査で確認されたものと一連のもので、無量光院跡以前にあった重要施設を囲む塀と考えられる。</p>							

岩手県平泉町文化財調査報告書第137集

## 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVII

—第46次調査—

印刷 令和3年3月20日

発行 令和3年3月31日

編集・発行 平泉町教育委員会

〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2

電話 (0191) 46-2111 (代) FAX (0191) 46-2015

印刷 川嶋印刷株式会社

〒029-4194 岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21

電話 (0191) 46-4161

